

2023／12／19 早稲田大学 専門ゼミII

# 日本の農村文化・文明を どう継承し維持発展させていくか

糸長浩司

環境建築家

NPO法人エコロジー・アーキスケープ 理事長

山形県飯豊町いいで農村未来研究所 所長

農村計画学会名誉会員（元副会長）

飯舘村放射能エコロジー研究会 共同世話人

低炭素社会推進会議 幹事

日本建築学会原発長期災害対応特別研究委員長

SDGs対応推進特別調査委員会 幹事

元日本大学教授

## [研究・実践活動]

20年近く原発事故被害地の飯舘村の村づくりを指導し、現在も、避難生活支援、復興支援活動を実施中。また、津波被災地の大船渡市碁石地区での復興支援研究を継続中、高所移転住宅計画等。

自然と共生した環境創造哲学、脱経済社会の構築デザイン、日本、世界（中国、西欧）でのエコロジカルな建築・都市・農村・地域計画の研究  
中国の都市・農村計画研究と計画設計・助言（上海・磯崎新+胡事務所等）  
日本建築学会での脱炭素社会のための建築・都市・農村ビジョンづくり  
都市再開発問題の課題追求（神宮外苑再開発等）

低炭素コミュニティデザイン、エコビレッジの研究

住民参画の地域づくり実践的研究（飯豊町、飯舘村、対馬市、丹沢大山等）

住民参画による地域での再生可能エネルギーの普及デザイン

日本と世界でのツーリズム研究（グリーンツーリズム、エコツーリズム、エコミュージアム）、ストローベイル建築等の自然建築研究

## 講義目次

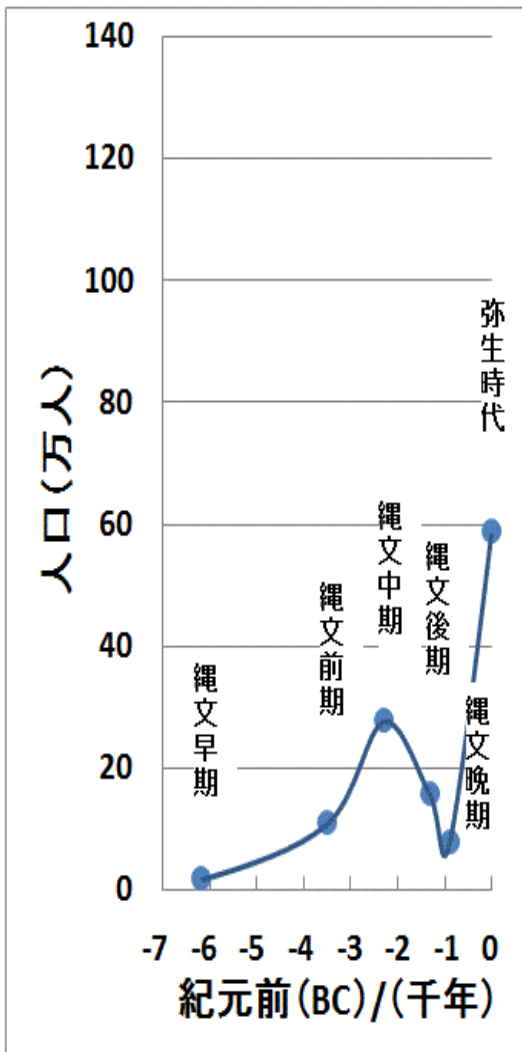
# ★ 日本の農村文化と農村文明とは何か？

① 日本の農村の歴史をみる  
自然に沿い、自然を改変し、  
食・水・エネルギー・住まいを  
共同で形成し、持続する人間の営みとして

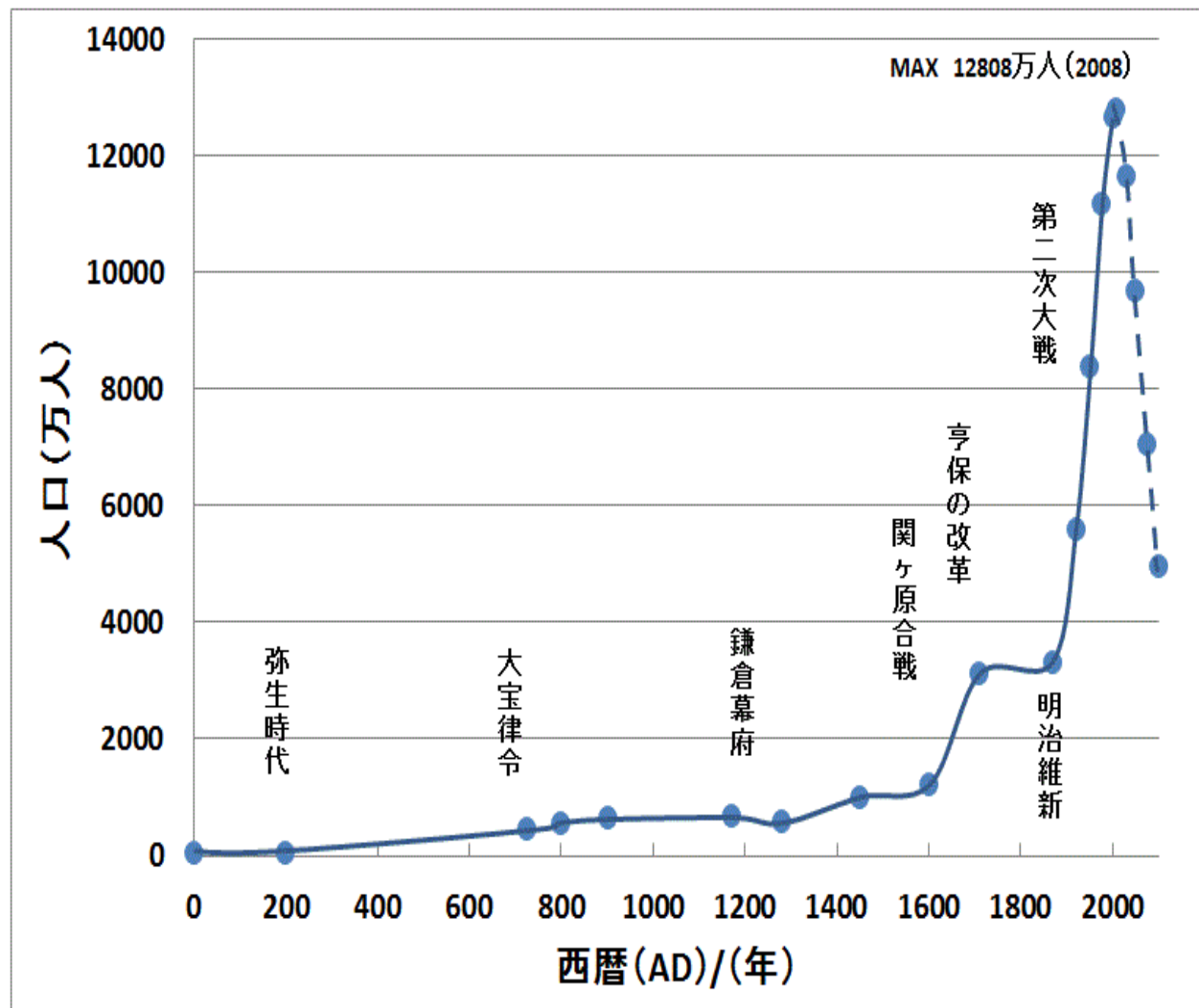
② 農村を計画するとは

③ 講義者の実践事例

- 1 山形県飯豊町 住民参加、土地利用、豪雨災害 1982年～
- 2 福島県飯舘村 住民参加、自然との共生、原発災害、 1993年～
- 3 岩手県大船渡市 住民参加、津波災害復興、高所移転 2012年～
- 4 神奈川県丹沢大山 県民参加、自然及び地域再生、 2004年～
- 5 熊本県水俣市 水俣病被害者・支援者、負の文化財保存活用2023年～



データ: 鬼頭 宏 「図説で見る日本史」2007



総務省 「国勢調査」及び”推計”

国立社会保障・人口問題研究所 「日本の推計人口」2012

# 日本の人口変化

王権の成立
  農耕社会の成立
  食糧採集段階
 \*土器の出現
 ○最古の防壁集落
 ■最古の墳丘墓
 ●最古の王墓
 ▲最古の環濠集落

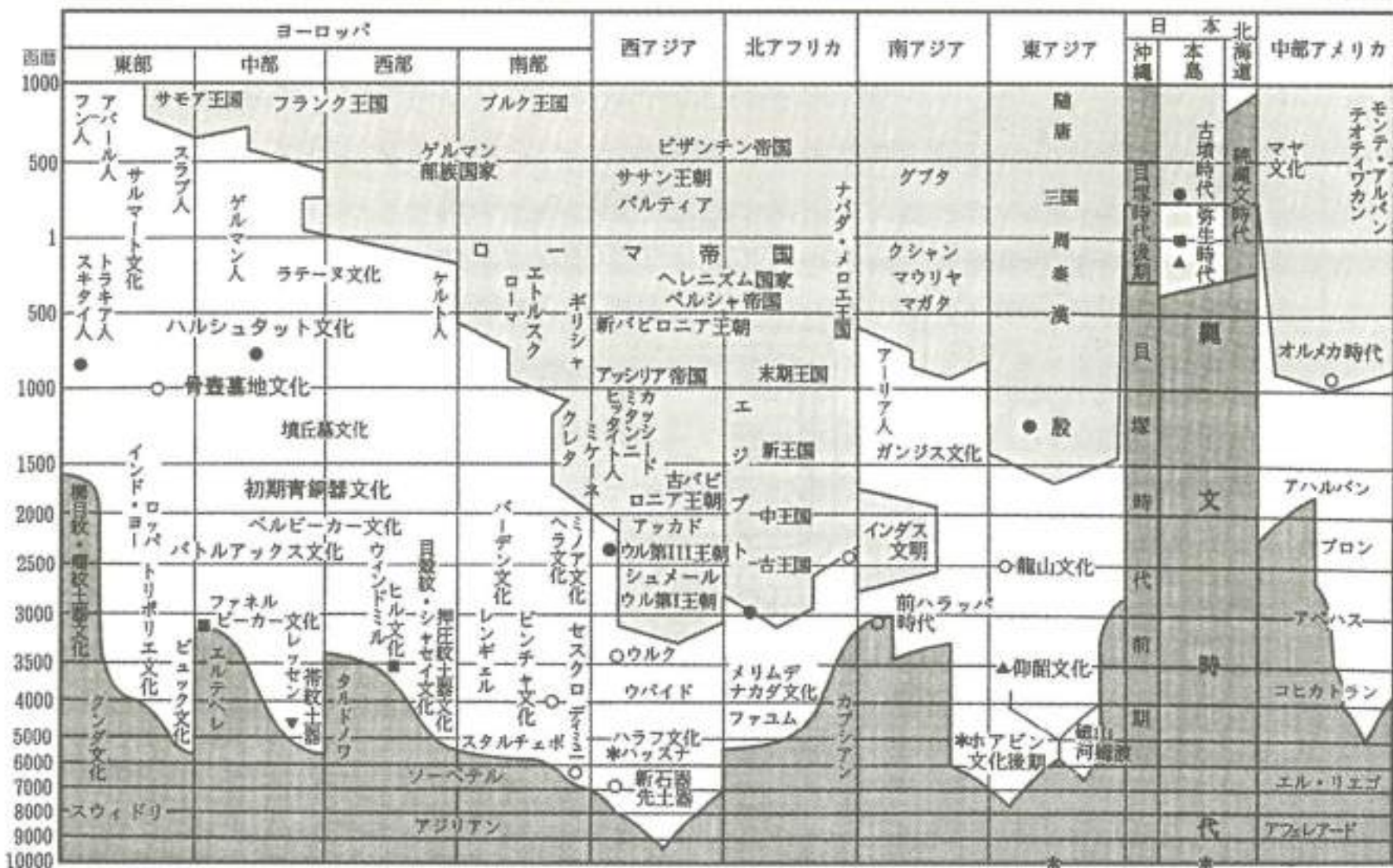


図9-21 世界史の中の日本列島 (日本第四紀学会編、1992に加筆)  
 食糧採集段階 (狩猟・採集文化) としての縄文時代の長い継続は特異。



①阿蘇外輪山（大畑峠付近）の基盤岩（阿蘇4）を覆うローム質土とクロボク土。換装体定積層を火入れにより草炭化している。こうしたクロボク土層には必ず多量の腐植層（腐の粒）が含まれている。



②クロボク土の地質図。腐植層は縄文人の野焼き・山焼きで生じ、黒炭となって堆積した。別山影朝小畑町での山焼き。火入れ後は草炭化し、多量の腐植の山菜が保れる。



③縄文時代の湿地地植物から多量に産出するゼンマイの種子（青森県鹿角市）。縄文人のコーナとしての草炭（腐植）からは、森林にはない多様な植物質を導くことができた。  
④クロボク土は、黒炭として堆積した微粒炭に黒色の腐植が保持されて黒化した土である。この土は火山灰ではなく、「林野の縄文文化」が生んだ人為土層であり、文化遺産でもある（山形県山

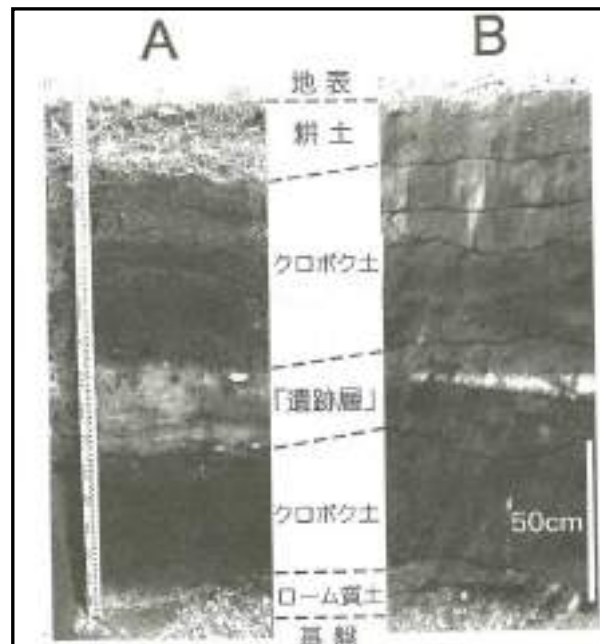


図9-12 縄文遺跡の地質柱状。Aは「縄文団地」の中、Bは外  
A地点では住居跡や遺物の埋積層（「遺跡層」）はローム質土。B地点では「遺跡層」のほとんどはクロボク土。

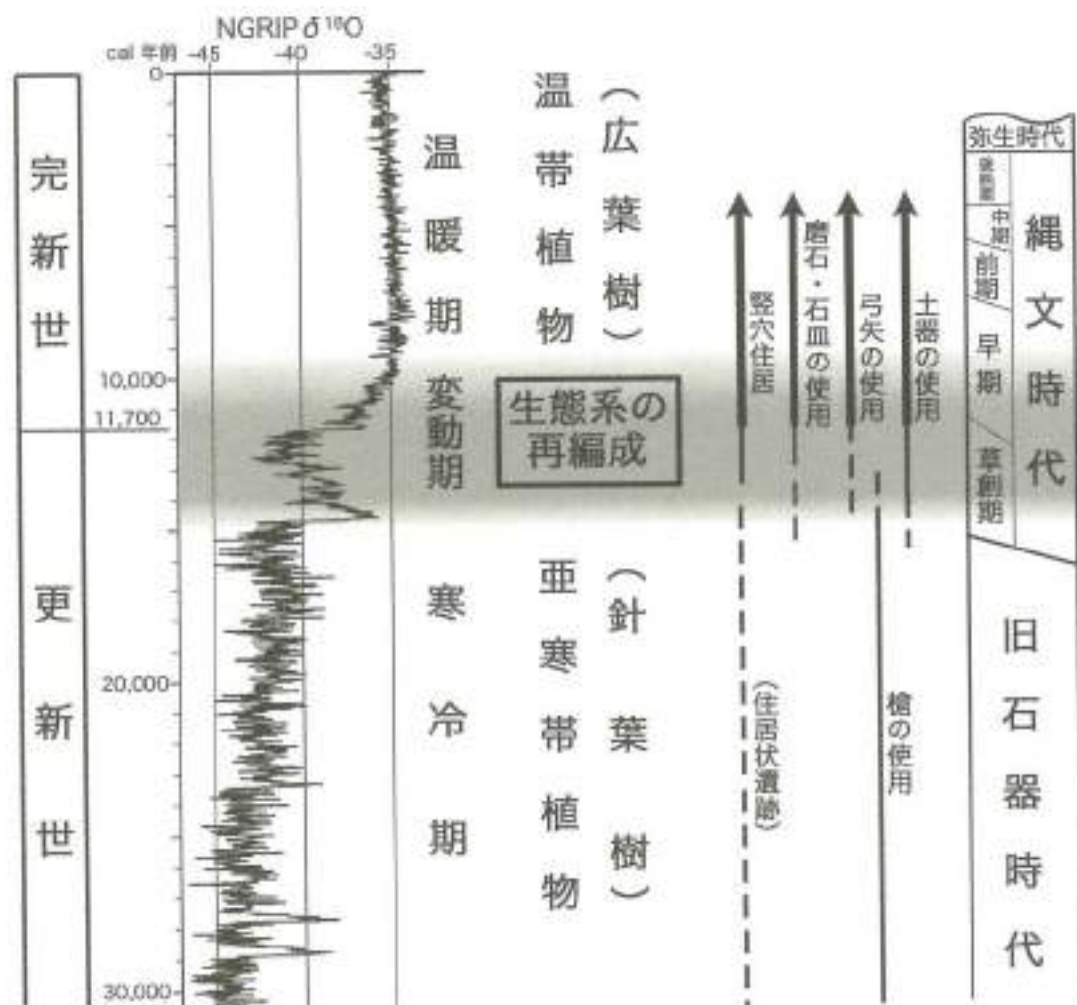


図9-7 気温の変化（グリーンランド氷床中の酸素同位体比の変化：NGRIP dating group, 2006 年より）の変動期に生じた生態系の再編成と古代文化の変化（工藤、2011 年より作成）



図9-1 クロボク土の分布（菅野ほか、2008；東北大学大学院農学研究科土壌立地分野、2008 年に加筆）と縄文遺跡の各時代における分布（小山、1984）との比較（北海道と島嶼部は除く）

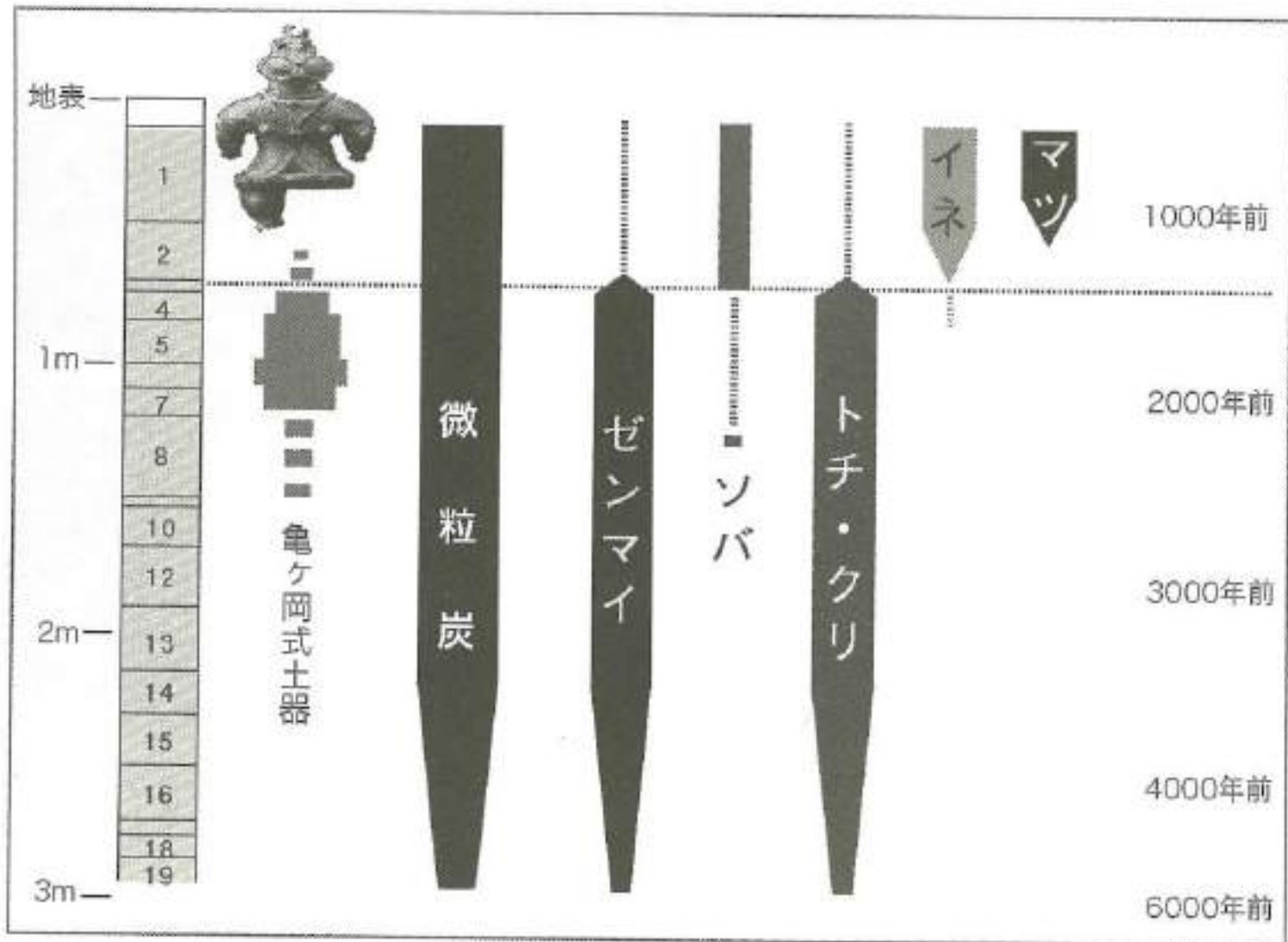


図9-19 亀ヶ岡遺跡の縄文期の堆積物に含まれる微粒炭と、特徴的な産出を見せる花粉と胞子の消長 (山野井・佐藤、1984 から作成)



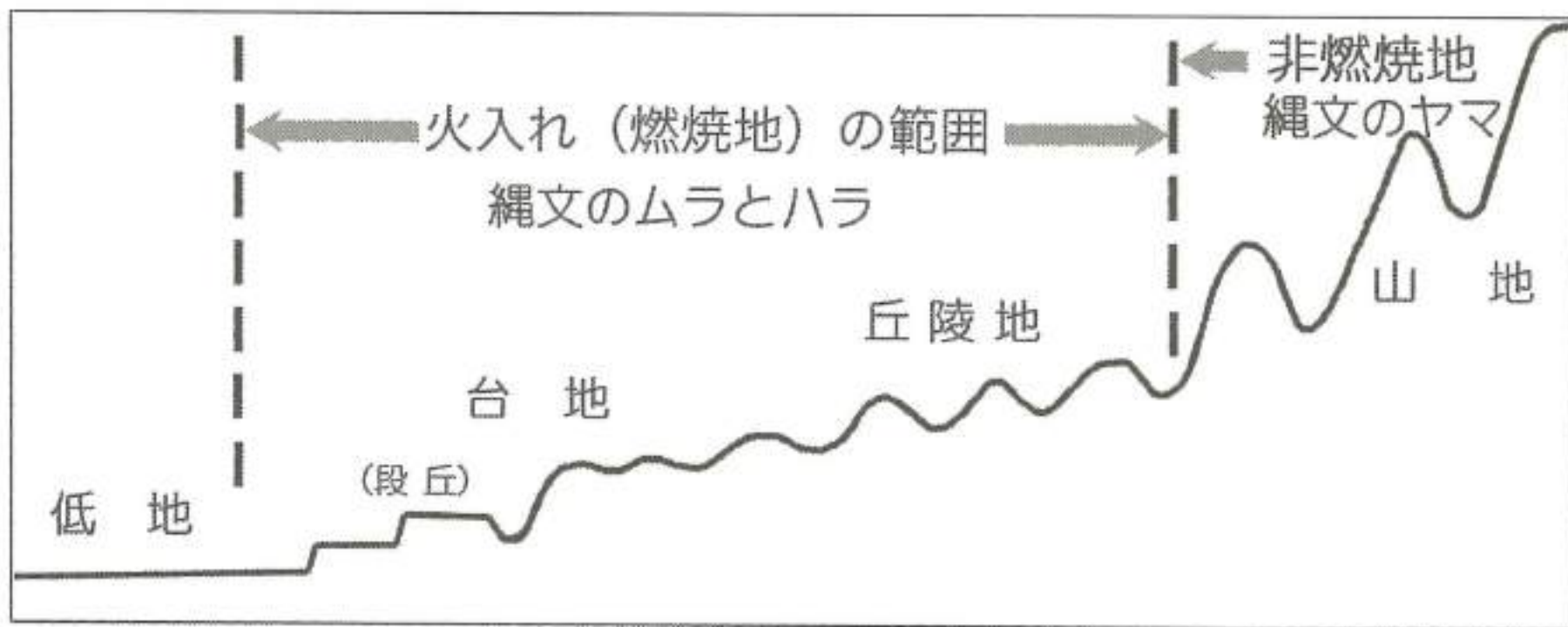


図9-15 縄文時代の火入れが行なわれた可能性がある地形的範囲





吉野ヶ里 遺跡 イメージ図 吉野ヶ里歴史公園資料

登呂遺跡 弥生



## 第一章 定住革命

サルや類人猿などの高等霊長類は、互いに認知している一〇〇頭でいど以内の社会集団（単位集団）を形成し、その集団に固有な一定の地域（遊動域）を、毎日のように泊まり場を移りながら生活している。そして人類もまた、出現してからの数百万年を、遊動生活者として生きてきた。遊動生活の伝統は、人類が人類となるはるか以前から、実に数千万年の歴史を持つていることになる。

人類は、出現の初期の段階で直立二足歩行を始めるとともに、ヒト以前からの伝統であった樹上生活を捨てた。人類を特徴づけている道具の使用や狩猟採集経済、大脳の大脳化、言語の使用などは、すべて直立二足歩行の出現に伴って派生した一連の進化的出来事と考えられている。そして人類は、今からおよそ一万年頃、人類以前からの伝統であった遊動生活を捨てて定住生活を始めた。その後、人類史の時間尺度からすればほんの瞬間ともいえる短時間の間に、食料の生産が始まり、町や都市が発生し、道具や装置が大きく複雑になり、社会は分業化され階層化された。これらのことは、定住生活の出現に伴って生じた一連の歴史的現象と考えることができる。

従来、この時期の人類史の展開には、食料生産の始まったことが、その要因として何より重視されてきた。だが、農耕民でなくとも、北アメリカ北西海岸の諸民族のように、主に漁撈活動によって定住生活を営んだ社会では、食料が大量に貯蔵され、奴隷を伴った社会の階層化があり、建築や工芸技術の高度な発達の見られることがある。また、あとで述べるように、植物栽培の出現も、定住生活をするところから派生した生態学的な帰結の一つであるにすぎないのである。このことからすれば、食料生産よりも、定住生活の持つ意味とその出現する過程を問うことが、ここ一万年の人類史の特異な様相を理解するのにより重要なことではなからうか。

一万年前  
遊動生活  
↓(理由は?)  
定住生活  
↓  
食料の生産  
★定住生活  
を維持するために食料生産(農業)を始める

『人類史のなかの定住革命』(講談社学術文庫)西田正規

定住生活の出現する背景に、**氷河期から後氷期にかけて起こった気候変動と、**それ

植物環境の大きな変化が重要な要因となったことは、定住生活がこの時期の域に、ほぼ時を合わせたかのように出現していることから明らかで

な規模で起こった当時の環境変化をごく大まかに見れば、次頁の図のよう  
る。氷河期から後氷期にかけての環境変動は、高緯度地帯でより大きく、低  
では少なかつた。すなわち、氷河期における温帯環境は、大きく南下してい  
な環境と、あまり動かなかつた熱帯環境の間にはさまれて圧縮されていたの  
そして氷河期が去り、**地球が再び温暖化して、温帯環境が拡大を始める。定**  
**が現われるのは、いずれも拡大してきた温帯の森林環境においてであった。**  
**は、中緯度地帯における温帯森林環境の拡大に対応して出現したのである。**

温暖化→温帯森林の拡大  
→狩りの獲物の減少

の中緯度地域には、亜寒帯的な草原や疎林に棲むトナカイ、ウマ、バイソ  
ニス、オオツノジカ、ウシなどが広く分布し、後期旧石器時代の狩猟民は、  
固有蹄類の狩猟に重点を置いた生計戦略を持っていたと予想されている。し

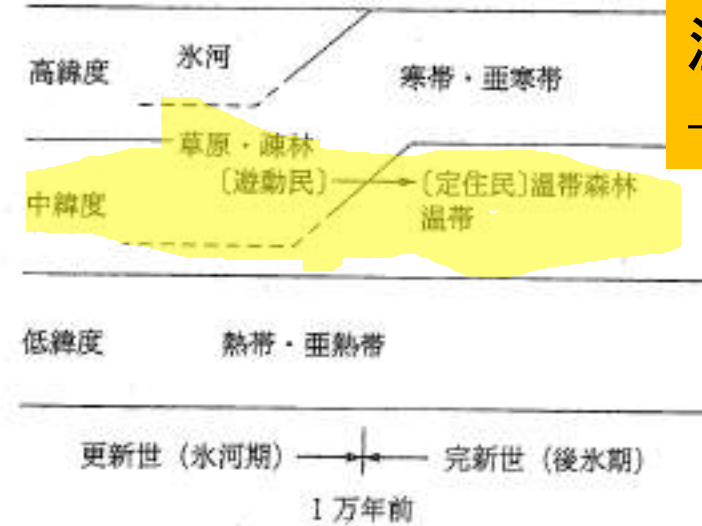


図 定住生活出現の環境的背景

かし氷河が後退し、草原や疎林に代わって温  
帯性の森林が拡大してくれば、これらの有蹄  
類は減少するし、またそれまでの、視界のき  
く開けた場所で発達してきた狩猟技術は効果  
を発揮しなくなるだろう。草原であれば、数  
キロメートルもはなれた獣を発見することも  
できるが、森の中では一〇〇メートル先の獣  
を見ることさえできない。しかもこの森に棲  
む獣は、アカシカやイノシシなど、氷河期の  
大型獣からすればいずれも小さな獣である。  
発見がむずかしいばかりか、障害物の多い森  
の中では、それまでの開けた環境では効果的  
であった槍を投げることもできず、たとえ獲

上の書籍『人類史のなかの定住革命』で「遊動することの動機」をリスト化している。→定住することによるストレスをどう低減するか。

農業文化（精神）・文明（道具、生活環境・農業環境整備）の発展  
周囲の自然を開拓・改変し、持続的に収穫活用できる二次自然に変革する

## 里山 里山文化・里山文明

### (1) 安全性・快適性の維持

- a 風雨や洪水、寒冷、酷暑を避けるため。
- b ゴミや排泄物の蓄積から逃れるため。

### (2) 経済的側面

- a 食料、水、原材料を得るため。
- b 交易をするため。
- c 協同狩猟のため。

### (3) 社会的側面

- a キャンプメンバー間の不和の解消。
- b 他の集団との緊張から逃れるため。
- c 儀礼、行事をおこなうため。 d 情報の交換。

### (4) 生理的側面

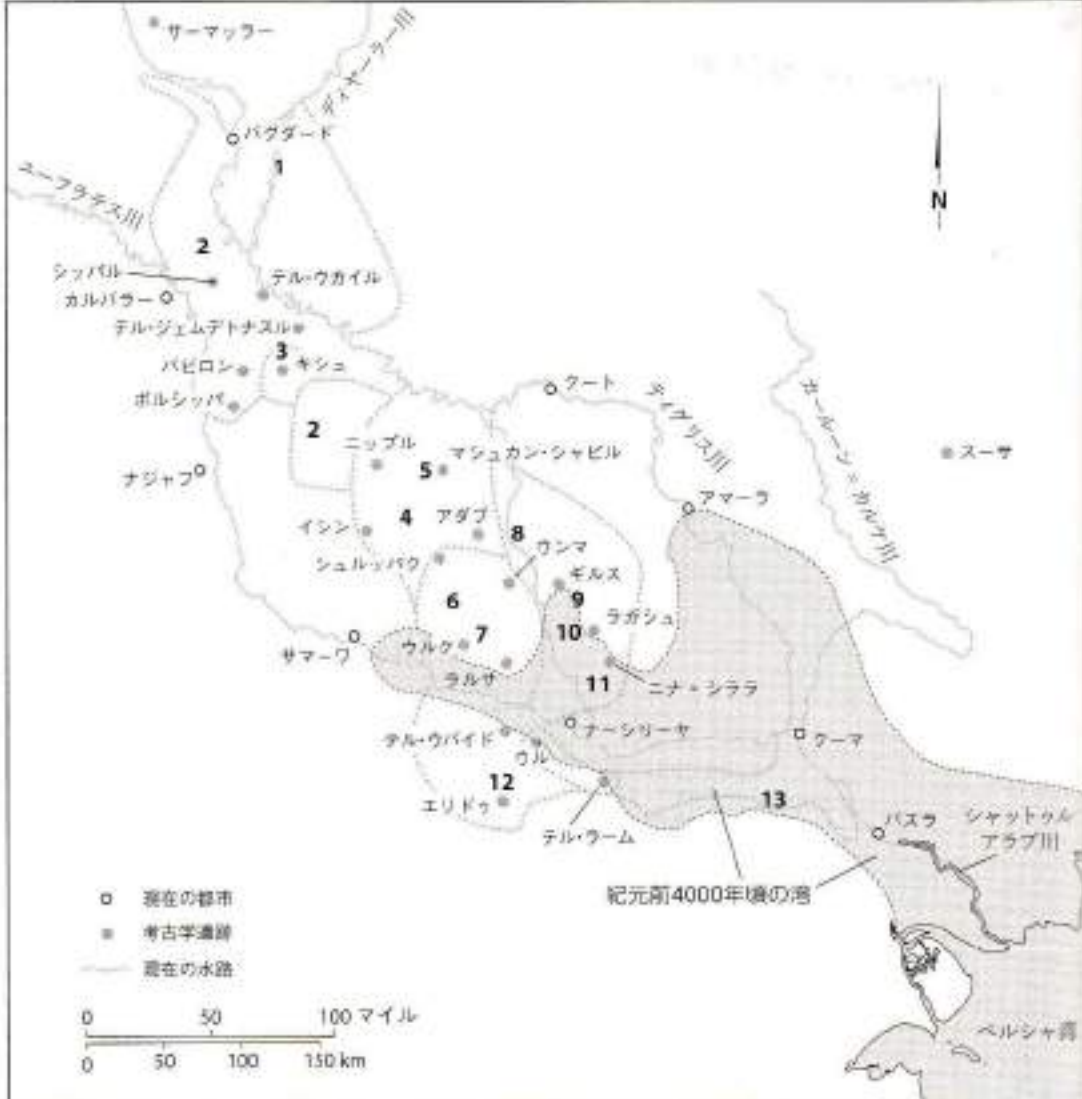
- a 肉体的、心理的能力に適度の負荷をかける。

### (5) 観念的側面

- a 死あるいは死体からの逃避。
- b 災いからの逃避。

出典：西田氏／p22-24

<https://rekishinosekai.hatenablog.com/entry/natuufu-teijuu>



豊かな自然の中での小規模定住  
採取文化による  
定住 = 小規模都市

紀元前5000年頃  
メソポタミア南部は乾燥地域ではなく湿潤地域で狩猟採集民の天国

自生植物や海洋資源の宝庫  
定住可能、農耕開発不要  
湿地の中の「亀の甲羅」で定住地づくり

共有的資源に支えられた社会  
非統治的定住地

→その後、農耕と家畜で支えられた定住地・古代都市

『ギルガメッシュ叙事詩』  
(bc3000) 川にペスト (?) による死体が流れる。

家畜と人口過密化による感染症拡大→都市の廃棄

メソポタミア沖積層の主な考古学遺跡 (調査地域とともに)

- |              |                |                    |
|--------------|----------------|--------------------|
| 1 ディヤーラー調査   | 6 ウルカ (ウルク) 調査 | 10 ラゴシュ            |
| 2 アッカド調査     | 7 ウルク          | 11 ズールガール (ニナ=シラフ) |
| 3 キシュ調査      | 8 東ガラフ         | 12 ウル=エリドゥ調査       |
| 4 ニップル調査     | 9 テロー地方        | 13 ハンマール基調査        |
| 5 マシュカン・シャビル |                |                    |

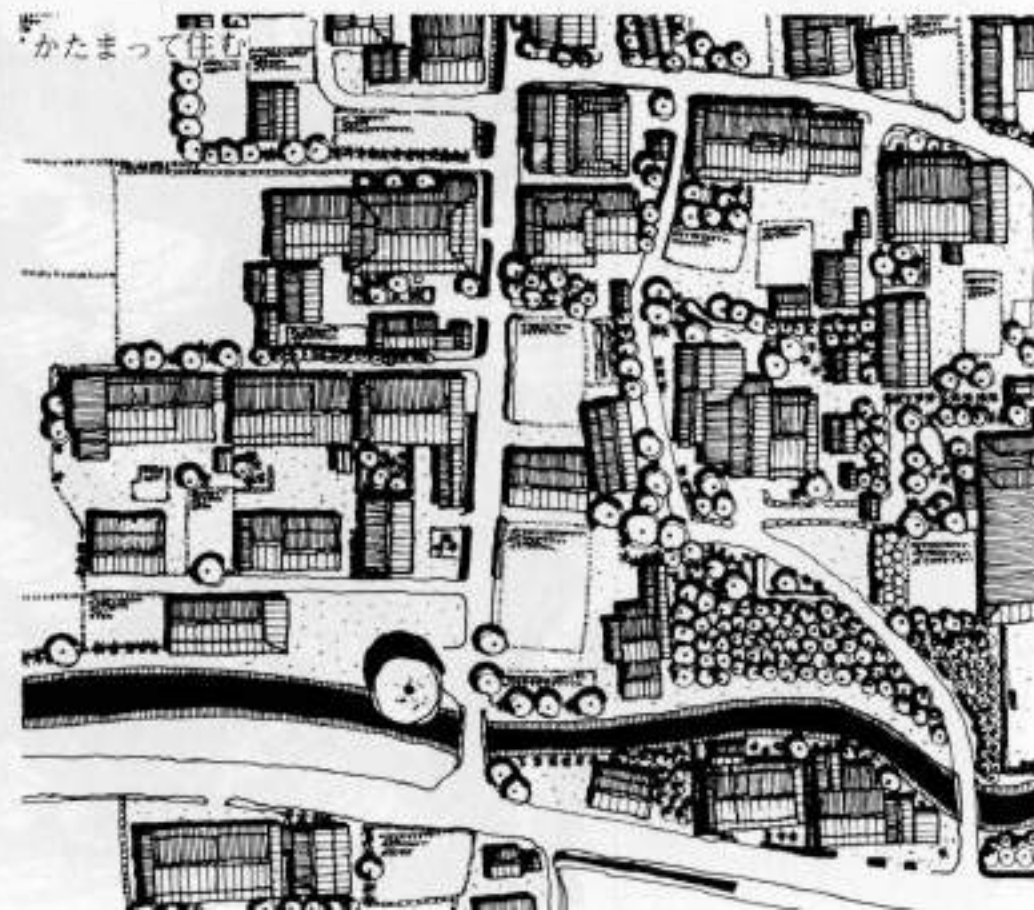
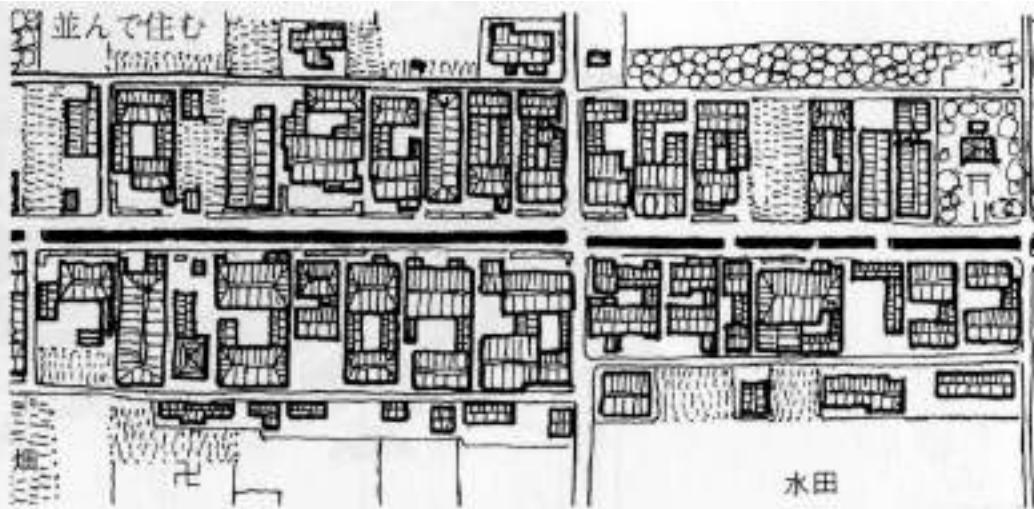
図7 メソポタミア沖積層：考古学遺跡

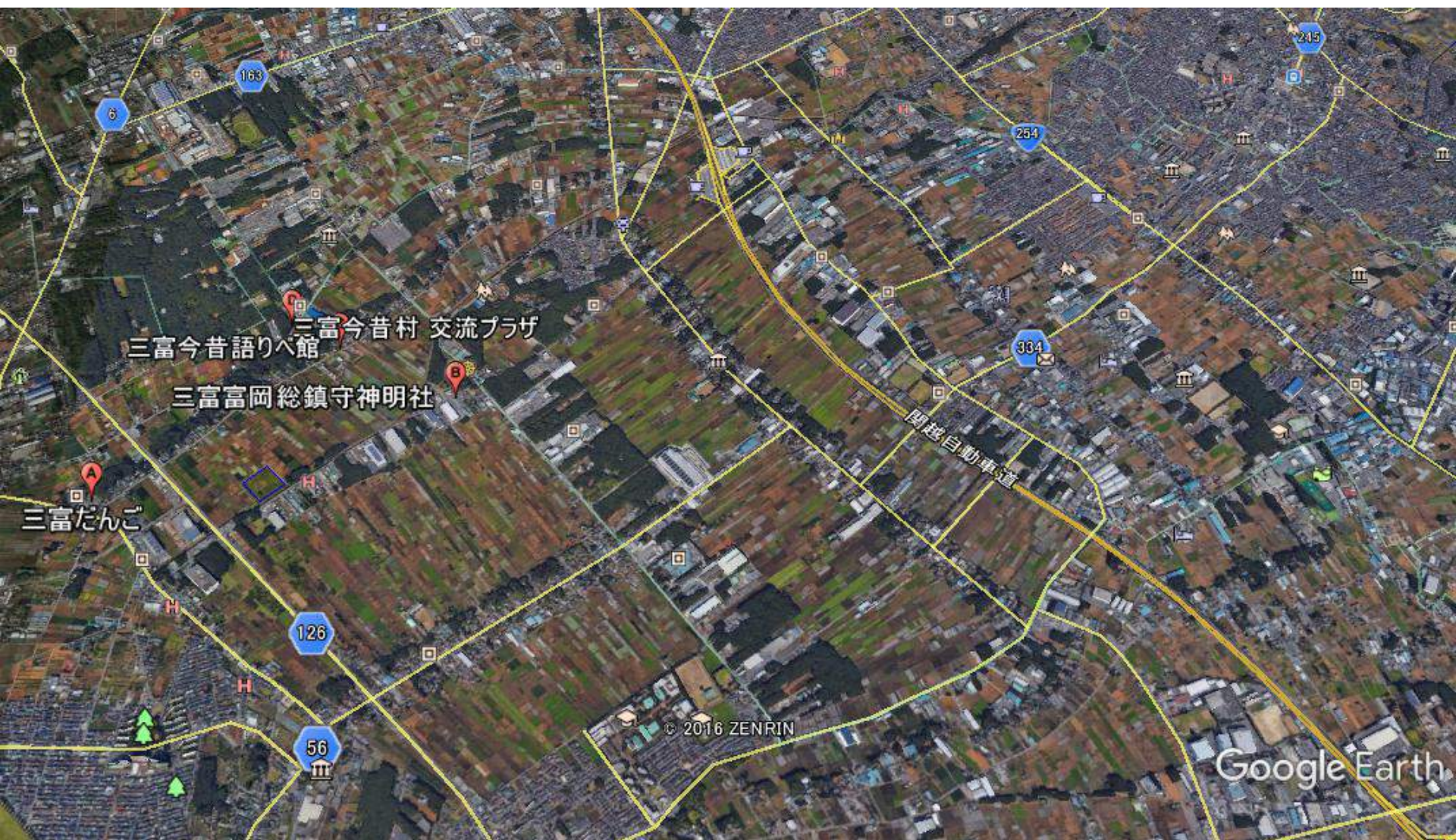
『反穀物の人類史』  
(ジェームズ・C・スコット)



# 日本の農村集落の形態

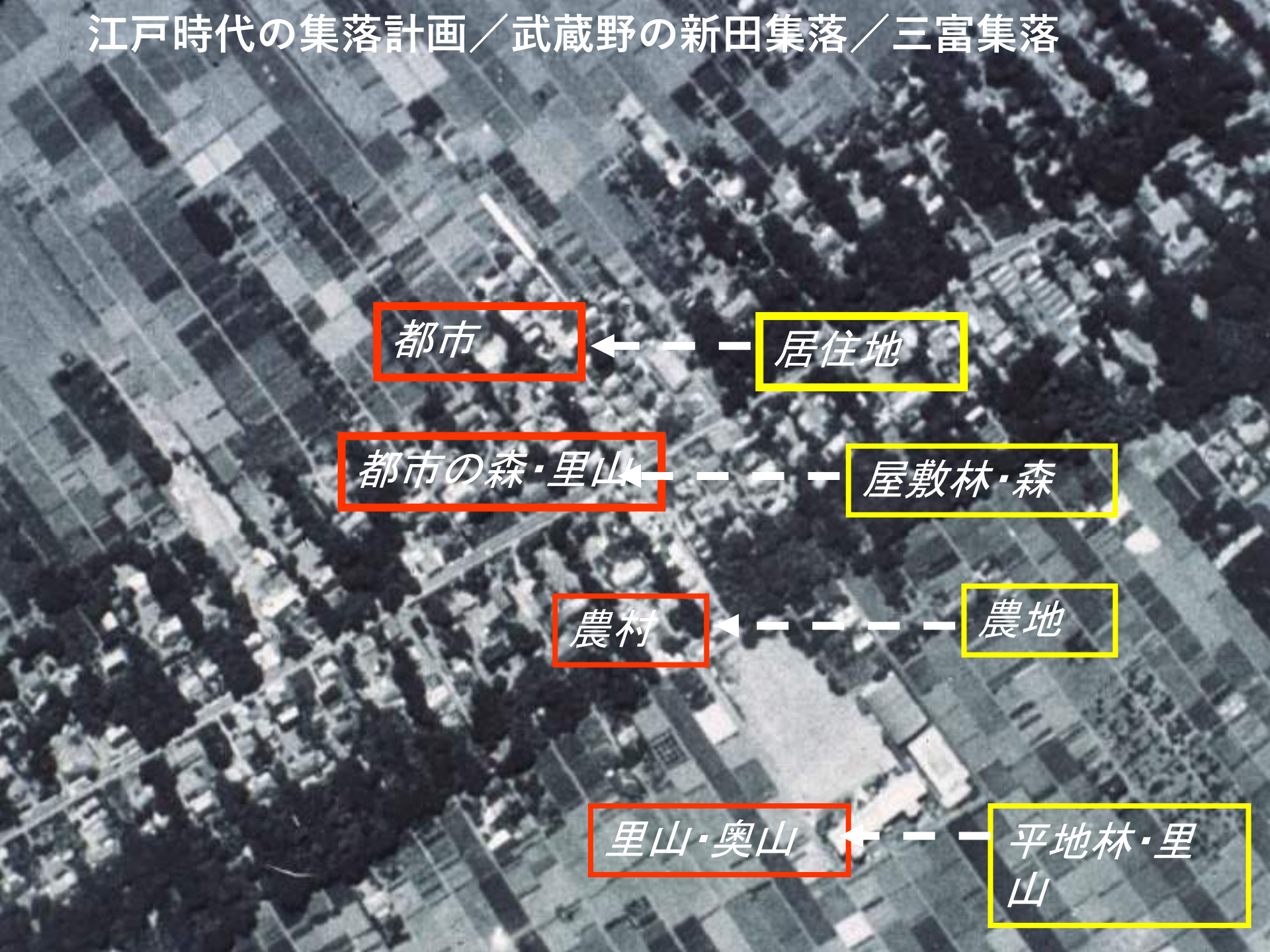
## 図説集落』より





江戸時代の新田集落

# 江戸時代の集落計画／武蔵野の新田集落／三富集落



都市

居住地

都市の森・里山

屋敷林・森

農村

農地

里山・奥山

平地林・里山



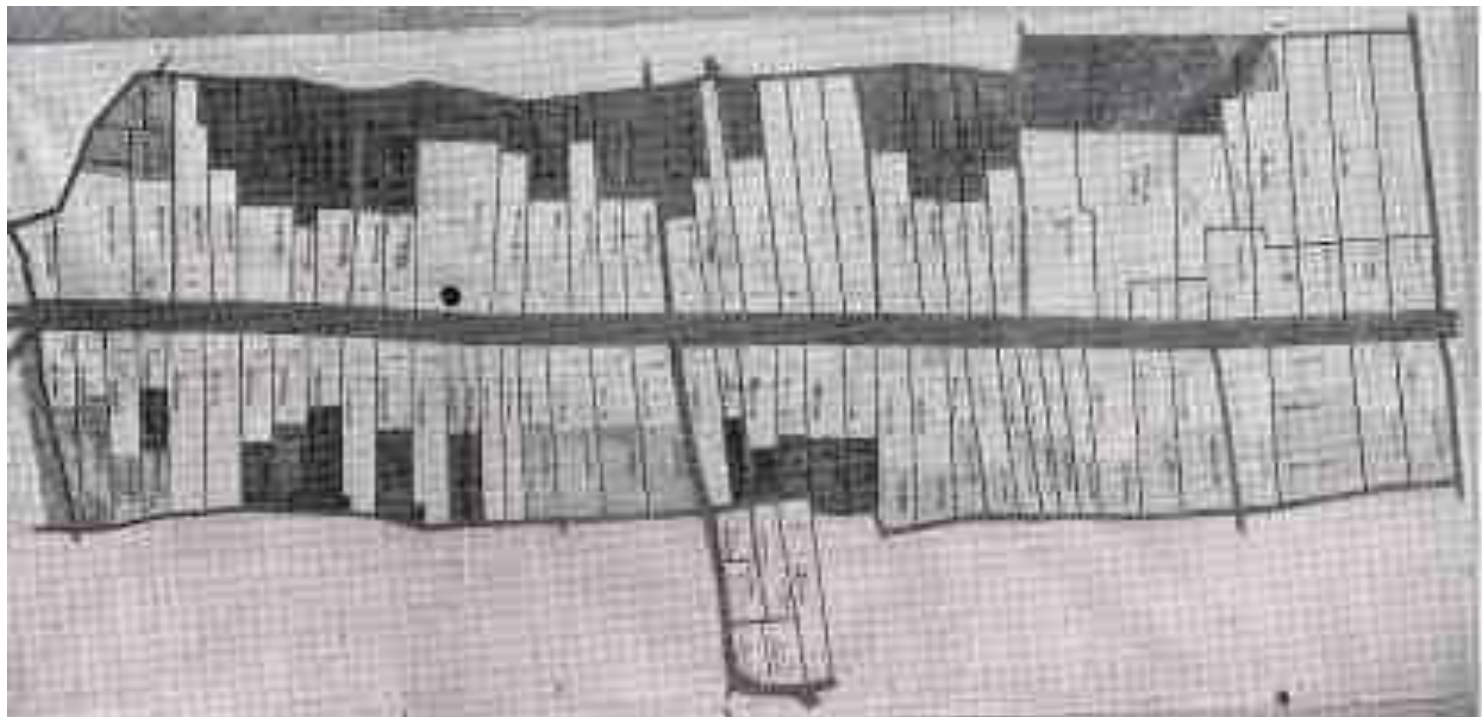
# ★ 講師の農村計画研究と実践のルーツ

江戸時代の新田集落に生まれる。東京都青梅市新町。

江戸初期の新田開発者 吉野織部之助による新田開発。

江戸道両側33屋敷平均2町歩を区画

畑作新田村造成の先駆



# 富山の散居集落 砺波市



扇状地の氾濫原の微高地に  
集落を開拓し、周囲を水田化して定住する



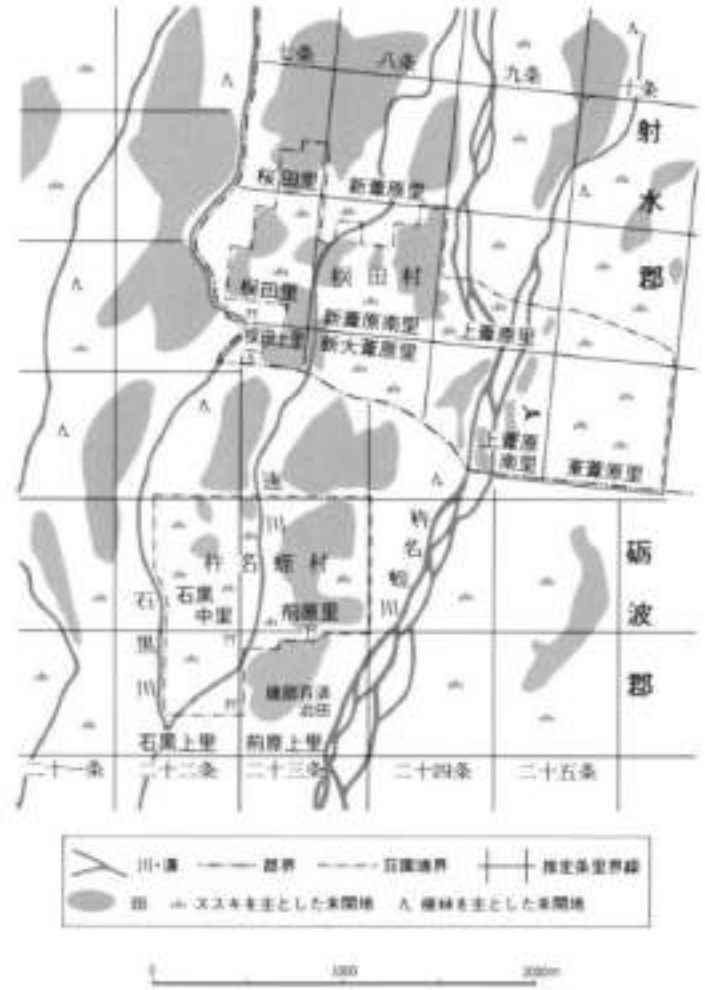
合口から取水された12の用水路が展開する庄川扇状地



【五月の遺学誌】「第14回とんみ野散居村フォトコンテスト」入賞作品 協力「とんみ散居村ミュージアム」

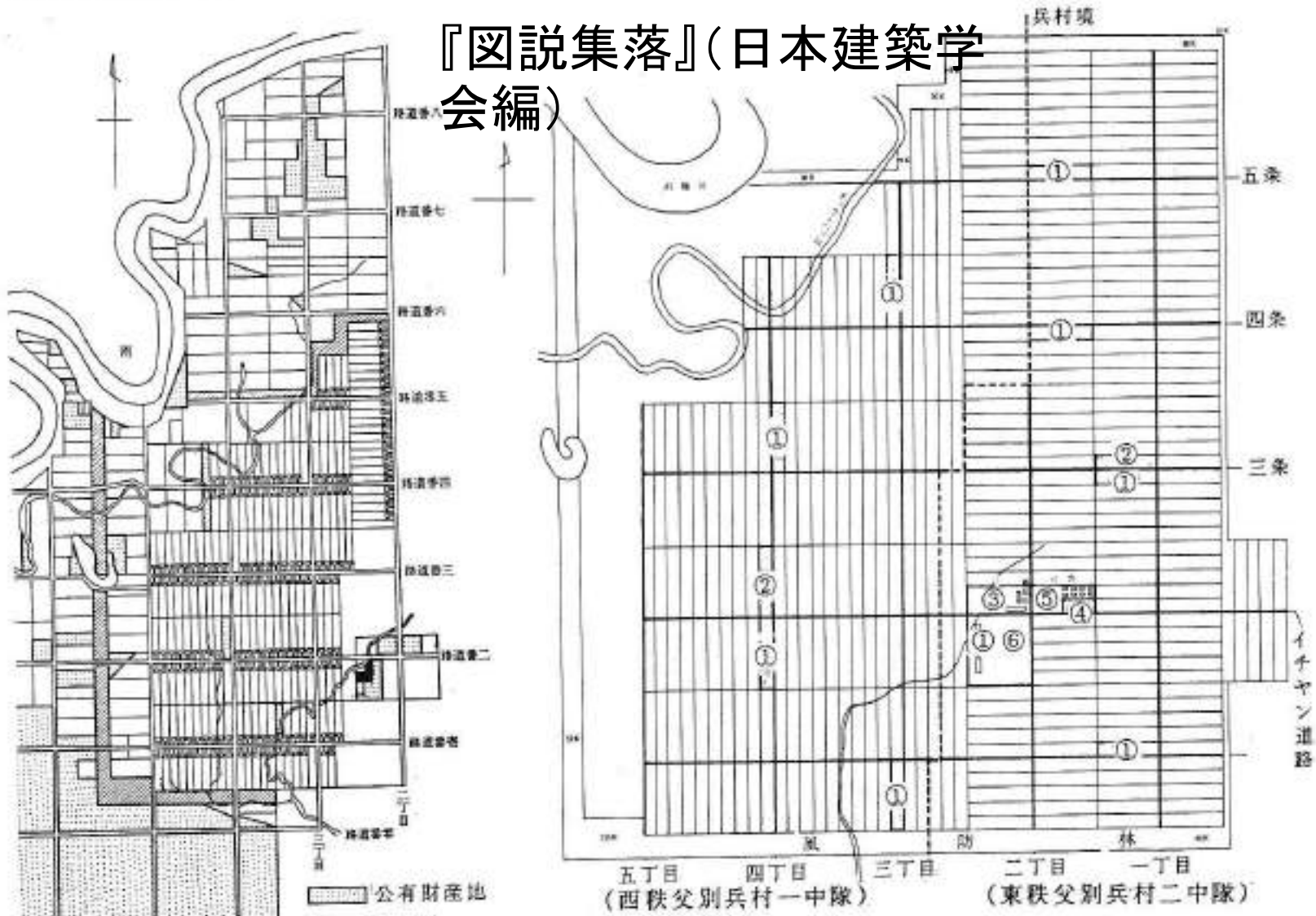
扇状地の氾濫でできた自然な微高地に散居集落が形成される。中世から近世、富山県『BIOCITY 80号』水系散居特集』  
 扇状地 氾濫 微高地 散居集落 中世 近世 富山県 『BIOCITY 80号』 水系散居特集 扇状地 氾濫 微高地 散居集落

図2 砺波郡杵名蛭村・射水郡榎田比定地付近の景観の概要





# 『図説集落』(日本建築学会編)



北海道開拓 屯田兵村 北海道の現地住民であったアイヌ民族の生活地の侵略・略奪、和人化政策を伴う  
 暴力的な計画側面・・・第二次世界大戦 中国・朝鮮半島への侵略と農民移住政策

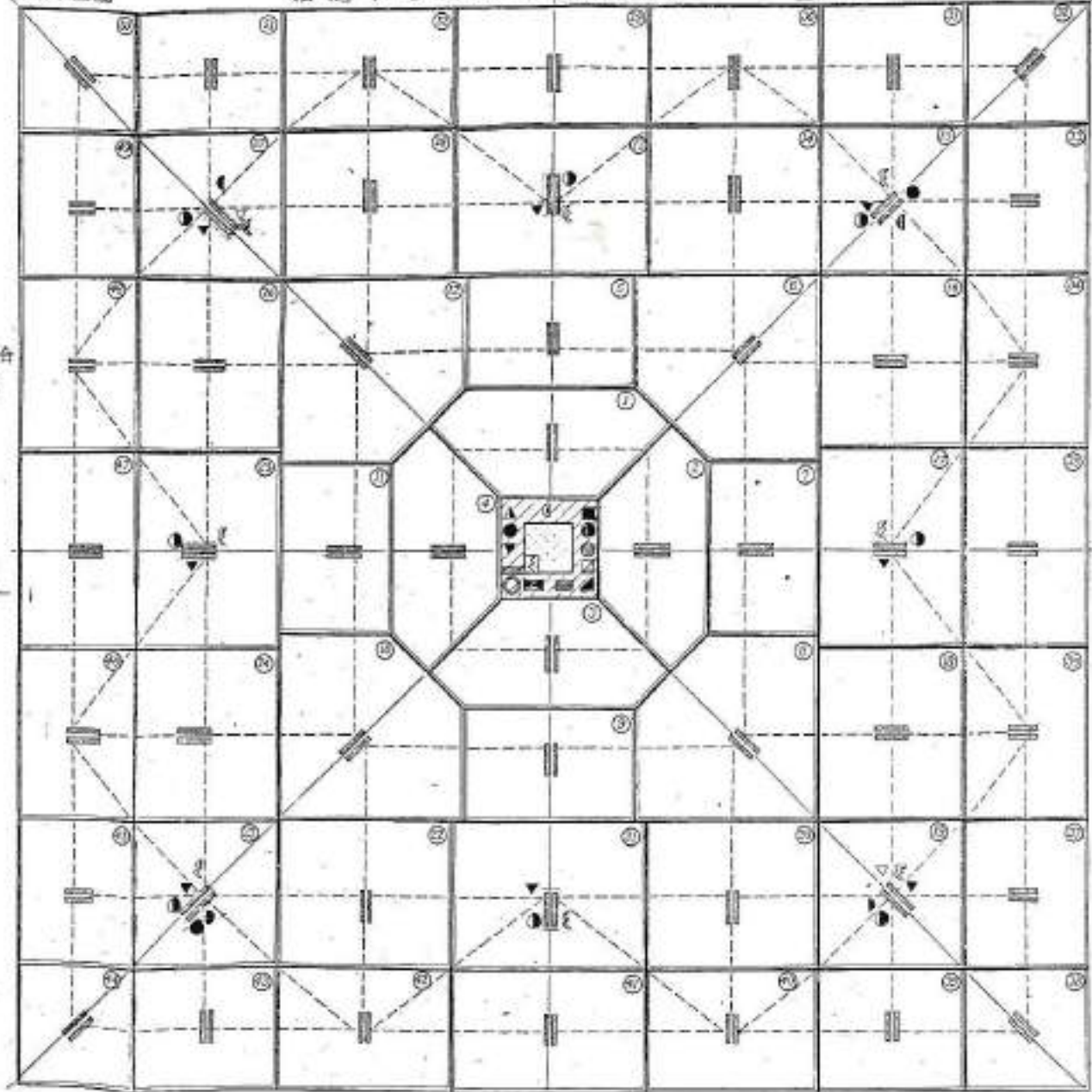
凡例

- 境界
- 幹線道路
- - - 道 路
-  主要中心地
-  工場用地
-  住宅
-  第二中心地
-  村落
-  中央協同組合
-  第二中心地協同組合
-  中央協同組合倉庫
-  冷蔵庫
-  屠殺場
-  皮革工場
-  ロード、石鹼、糖
-  酪皮工場
-  製酒工場
-  酒精工場
-  送電所
-  発電所
-  製糖工場
-  バター、チーズ工場
-  製粉工場
-  製粉、糠工場
-  榨油工場
-  製糖工場
-  煉乳工場

第十四圖

拓植中心地及び部落配置

1 0 1 2 3 4 5 6 7 km



第二中心地ハイゼモ中央電話ノ連絡ヲ能ク設置シテ有セラル可ク、各村落中心ト連絡シ相互屋モ又電話網ヲ設ケル事。  
本圖ハ第一主要及第二工場ノ位置ヲ示セルモノニシテ各種工業ハソノ農産物ノ種目ニ依リ變異シ得ルモノトス、例ヘバ酒精工場ニ代リニビール工場ヲ設ケルガ如シ。

第二次世界大戦での日本による満州侵略時の新村計画図

図2.4.9 拓植中心地及び部落配置図

『図説集落』(日本建築学会編)

# 戦後の緊急農村開発 八郎潟新農村建設(1957年～1977年)

近代的農業・農村計画として、都市計画との融合化、合理化、  
15640ha、580戸農家



八郎潟は、水面積22,170haの汽水湖で、船越水道で日本海とつながっていた。湖底は皿状で、最深部でも5m位であり、湖底に堆積したヘドロは肥沃で、干拓に適していた。潟の周辺、特に東側には平坦な耕地が広く開け、馬場目川・豊川・井川の河口付近は、数百年前から細々と干拓され続けていた。

干拓で生まれた大潟村の中心地は、右の図および写真のように計画的な新住宅区がつくられ、住居と農地は完全に分離された形となっている。

## ② 農村を計画するとは 計画という行為

計画は何か

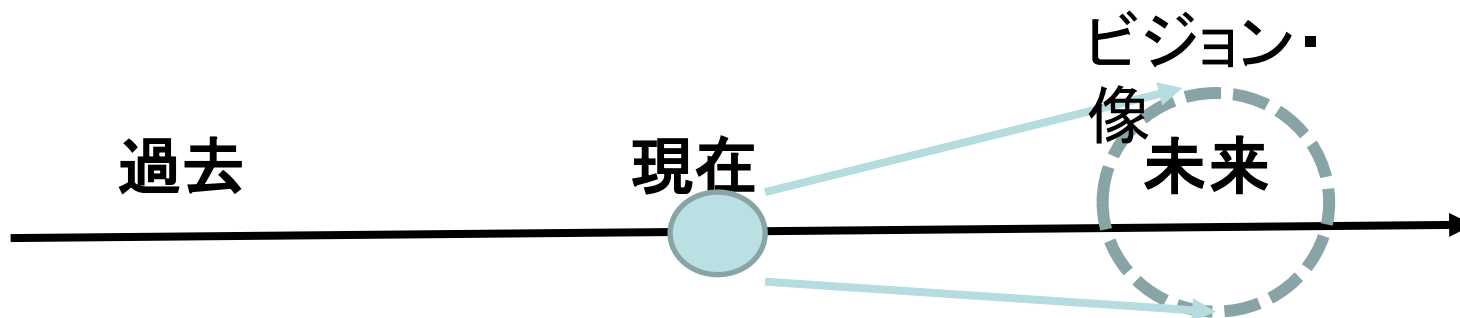
旅行計画、人生の計画、学習の計画

建築計画、〇〇計画

計画は時間を含む概念である。

計画は、未来の先取りであり

未来の像を描き(イメージ)、それを実現・獲得するための  
ロードマップをつくること。



# ★ 農村計画の理念

■ 計画とは未来の先取りである。

■ ビジョン(構想)→観察(調査)→計画→実行→

①社会計画・経済計画・空間計画の三位一体

②自然環境・食料生産環境・人間生活環境としての  
農的環境・二次自然環境の維持と育成  
「里山」の価値評価、生物多様性の空間

③住民参加による農村計画の推進  
農民・住民・行政・企業・大学との協働体制の構築

④農村基礎共同体としての集落、  
旧村での農村計画主体の育成と連携

⑤都市農村計画の一体化、都市住民と農村住民との協働化

# ★農村計画・農村づくりに関わる多様な主体と方法

## ■農村計画は

社会・経済・環境（空間・施設）三位一体的、持続的計画学

## ■多様な主体・ステークホルダー（利害関係者）

住民・行政・企業・団体・

専門家（調査・研究者、企画・計画・設計者）

## ■主体の関わりの方法（調査計画対象・参加・参画の手法）

### ■住民の当事者意識を高める

## ■住民・専門家・行政の参画関係

### ■住民の関わりの方法

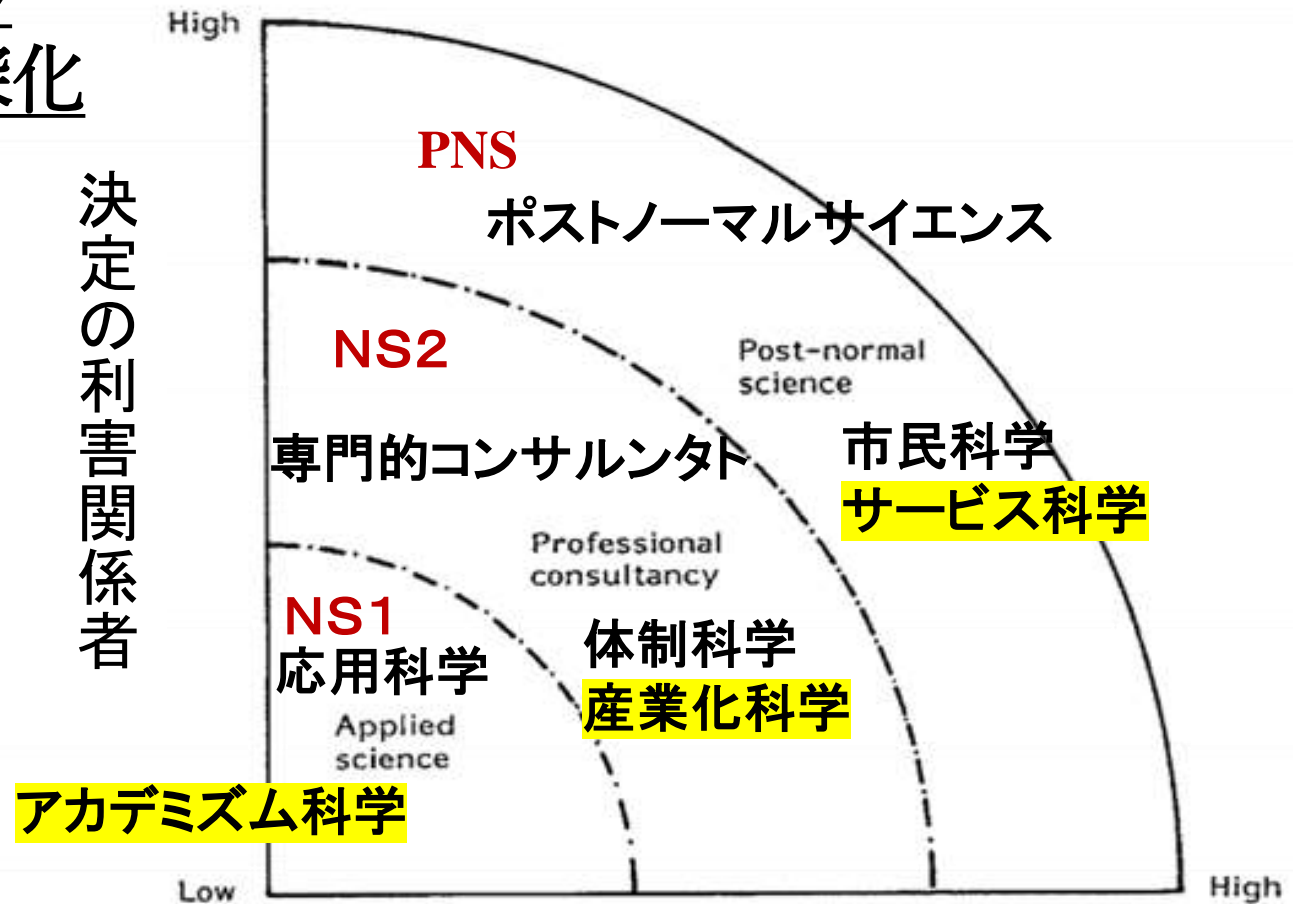
聞き取り、アンケート、意見交換・座談会、ワークショップ

### ■専門家の立場

調査者、企画・計画・設定提案者、施工者、評価者

## ★参考図書 『農村計画学』（朝倉書店、糸長浩司他）

# ★ 科学技術の 総合的民主的深化



## システムの不確実性

- 塚原東吾、ポスト・ノーマル・サイエンスの射程からみた武谷三男と廣重徹、『現代思想 特集日本の物理学者達』2016年5月、2016年
- 金森修、『科学の危機』、集英社新書、集英社、2015年
- ジェローム・ラベッツ、『ラベッツ博士の科学論(科学神話の終焉とポスト・ノーマル・サイエンス)』、こぶし書房、2010年
- ジャン=ピエール・デュピイ、『ありえないことが現実になるとき』、筑摩書房、2012年

### ③ 糸長浩司の関わっている農村調査・計画・施工事例

#### 1. 山形県飯豊町

(住民参加による土地利用計画、総合計画策定等)

#### 2. 福島県飯舘村

(村の総合計画、放射能汚染実態調査と対策等)

#### 3. 岩手県大船渡市碁石地区

(津波被害復興計画と新住宅地づくり)

#### 4. 神奈川県丹沢大山自然再生委員会活動

#### 5. 熊本県水俣市「水俣の歴史的遺構（蹟）を残す会」

(水俣病関連遺跡の保存活用)

★参考図書 『BIOCITY78号SDGs未来を変える17の目標とまちづくり』  
『震災復興から俯瞰する農村計画学の未来』糸長浩司他 編著



# 1. 飯豊町の1970年～現在までの農村計画の歴史

## ①1970年～1983年

日本の住民参加型農村計画の始動期

## ②1984年～2001年

地区別土地利用計画・景観環境保全・  
農村計画研究所による域学連携の本格期

## ③2002年～2017年

環境と経済の好循環、グリーンツーリズム、  
バイオエネルギー、交流の本格期

## ④2018年～

自治体SDGsと農村計画研究所再興期  
豪雨災害と復興に向けて

# 山形県飯豊町の散居風景



# 飯豊町の農村計画 半世紀を超える住民参加によるむらまちづくりの歴史



1974年 第一次飯豊町総合計画 120人委員会（住民参加のまちづくり始動）  
1990年代 飯豊農村計画研究所による 農村計画講座  
2012年 農村計画学会むらづくり最優秀賞 青木志郎教授、後藤幸平町長

# 椿 講

コミュニティワークショップの記録



# お知らせ版

発行 / 山形県飯豊町 編集 / 企画課

## 椿 講



飯豊町の総合計画(今までの)のまち・いいで)がまとめられてから数年たちました。町全体の将来の姿を描いた私達は、1980年代のはじめに新たな気持で各地区のあしたを皆で考え、討論し、描く場を数多くもちたいと思っています。その最初の場が、椿地区のあしたを創る「椿 講」です。一週間にわたって開かれるこの新しい講は、町当局の全面的協力のもとに、私達大学の研究室が進行係をつとめますが、主役となるのは、いまでも多く椿地区のかたがたです。講を前に北江上、椿地区のかかえている問題や良い面を掘り起すアンケート調査が行なわれます。その結果が「椿 講」で使われます。では一週間のプログラムを御案内いたします。

協力/飯豊町企画課  
専工大 青木研究室  
早稲宮大 藤本研究室

## 椿地区のあしたを描く 1980.2.11~17

講1. 椿の今日と明日を考える  
2月11日(月) 午後1時~5時  
時間の都合のつく人は誰でも自由に参加していただき、椿の今日と明日をいろんな角度から考えます。①スライドで見る今日の椿 ②数字で見る今日の椿 ③アンケート結果を眺む ④みんなの考える明日の椿(座談会)

講5. 公民館を計画する  
2月15日(金) 1:30~5:00  
みんなのよりどころとなる公民館の建設場所、内容、建設費の調達方法、どんな部屋がほしいか、規模などについていろんな考えを出し合い、それを描いてみます。

講2. 農業と土壌を点検する  
2月12日(水) 1:30~5:00  
これらの6日間は、毎日出席していただけるかたが中心になって作業を進めます。狭い懸垂、用水路の未整備など、休耕地など、スライドを見ながらみんなで地図に記入していきます。

講6. 椿の計画目標を創る  
2月16日(土) 1:30~5:00  
前日までの作業の中から書きほりにされた計画課題を大きくいくつかまとめ、それをグループ毎に煮つめます。

講3. 生活環境を点検する  
2月13日(火) 1:30~5:00  
交通手段の危険がある場所、ゴミが投げられて汚ない場所など問題のあるところと、眺めの良い場所、田圃のある場所まで移れたところも、スライドを見ながらみんなで地図に記入していきます。

講7. 椿のあしたを描く  
2月17日(日) 1:30~5:00  
計画目標の具体的な方策を地図の上に描きこみます。自分で今すぐにもできるものは何か、町、県、国に要望すべきものは何か、ひと目でわかるように。そして打上げの懇話会!

講4. 商店街を点検する  
2月14日(木) 1:30~5:00  
商店街(駅前も含めて)をもっとにぎわうようにするために、少し資料は古いですが5年程前に行なわれた商店街診断の結果を参考にしながら、方策を考えます。



場所 椿公民館へ!

# 山形県飯豊町

## 散居風景の保全と住民参加による土地利用計画

1980年代後半～



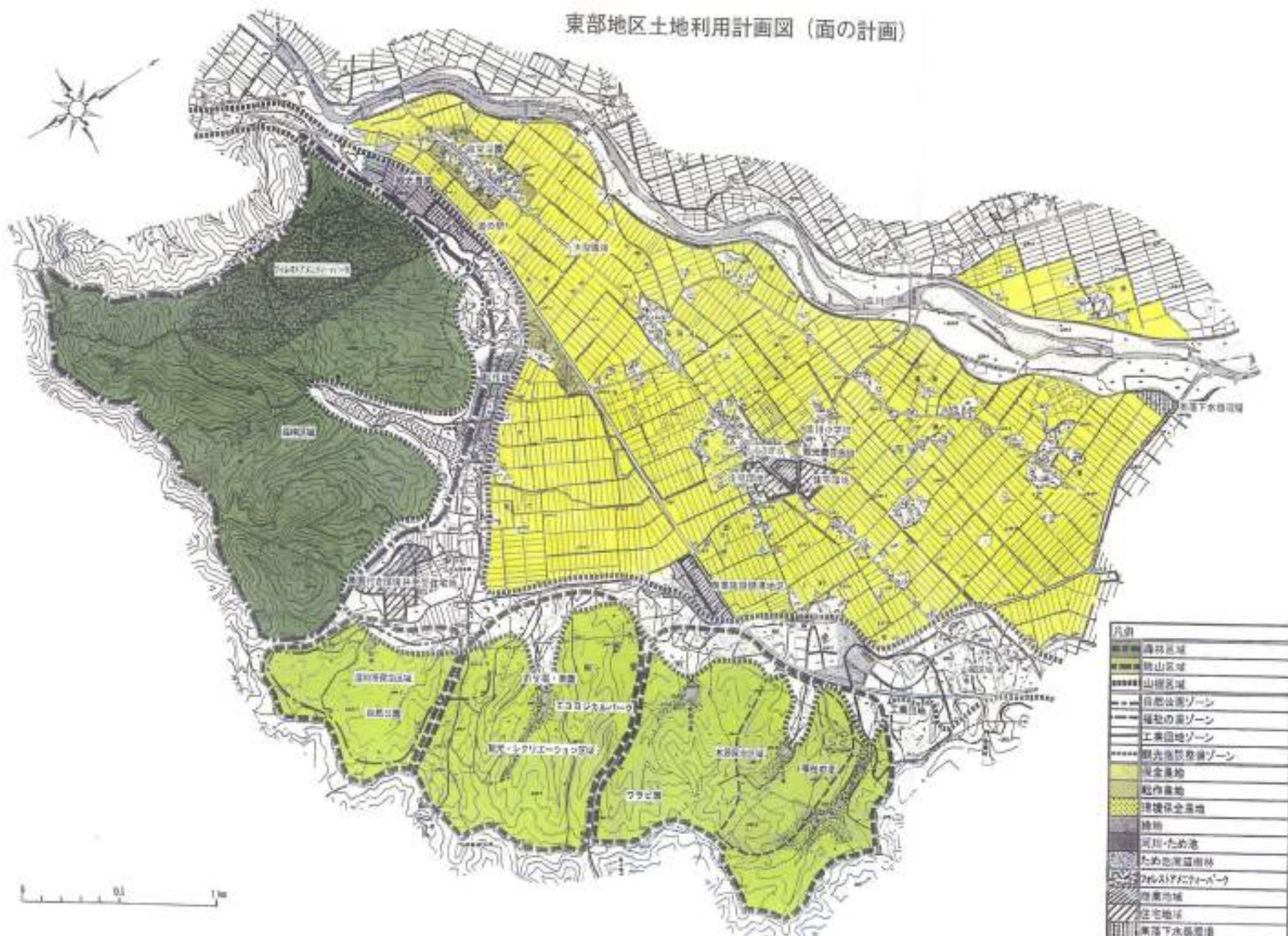
## 4 地区別計画



### 地区別計画をご覧いただく際の注意点

- 世帯数及び人口は、平成12年10月1日現在（国勢調査速報値）の数値です。
- 地区土地利用計画は、地区毎に策定されたもので、それぞれに個性があり、形態も異なっております。そのため、【4】地区土地利用計画の概要につきましても、できるだけ同じ形態に概要をピックアップしたものです。詳細をご覧いただく場合は、各地区の土地利用計画をご覧いただくことになります。なお、既に完了した整備・活動等内容についても掲載されている場合があります。

# 東部地区土地利用計画図（面の計画）



凡例

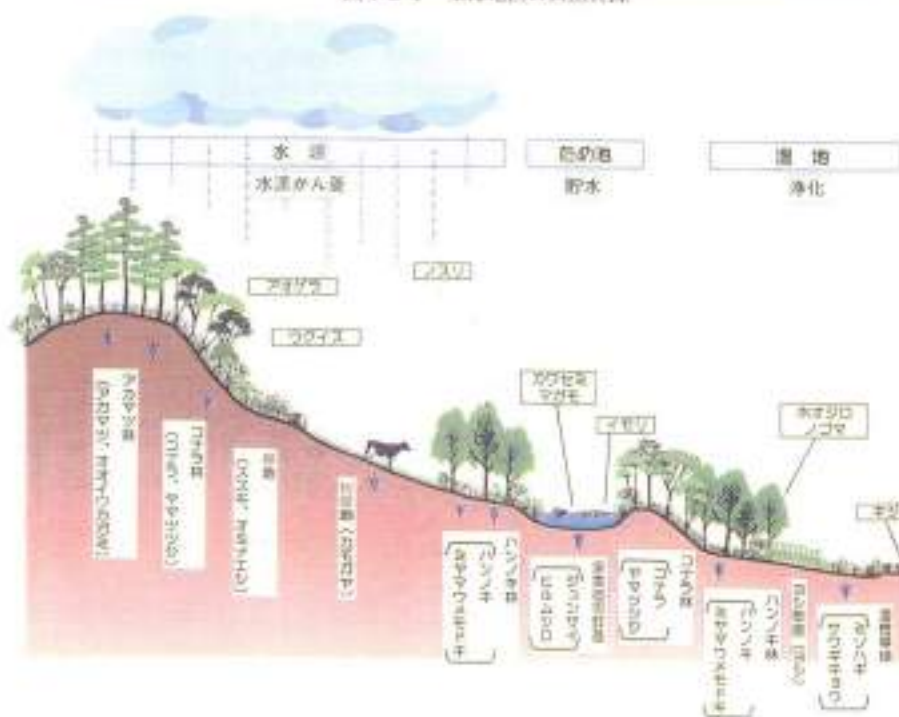
	森林区域
	山麓区域
	山頂区域
	自然公園ゾーン
	種粒の産ゾーン
	工業団地ゾーン
	観光施設整備ゾーン
	保安林地
	耕作農地
	環境保全農地
	緑地
	河川・ため池
	ため池保護森林
	カシノ科に属する樹木
	農業地域
	住宅地域
	東部下水処理場

### 3. 自然立地特性と土地利用の課題

#### 3-1 自然立地特性



図 1-3-1 東部地区の自然資源



東部地区は、坂巻町の最下流部に位置し、白川の右岸に広がる低地部は水田の中に散居集落が点在しており、地区の南東部に位置する眺山丘陵は、南部がアカマツを中心とする樹林地となり、北部は牧草地を中心とした植生となっている。

当地区は、現在では白川から水が引かれ、水田が営まれている。しかし、かつては眺山に源流をもつ沢水に依存していた水田が丘陵の麓にみられ、河川の水と沢水の2つの異なる水源を利用した水田耕作を中心とする環境系が形成されていた。その特徴を以下に示す。

- 低地部の水田と散居集落が白川や眺山を水源とする沢から引かれた水路で網の目状につながる水系を中心とした環境系が原形となっている。

- 丘陵の樹林地は、かつて薪炭林や新炭林として利用され、その点で低地の集落の生活や農地の維持と結びつき、丘陵と低地を結ぶ環境系が形成されていた。

- 散居集落の屋敷林は丘陵の樹植物の一部を呼び込む飛び石的役割を担っている。

土地利用計画では上記の特徴を踏まえ、豊かな自然環境を維持・回復し、良好な生活環境を形成していくために、現在赤岩順・添川排水路に排水されている眺山の沢水を生活環境用水として集落に引き込み、丘陵と低地の環境系の一部を回復することから始め、徐々に全体に広げていくのが良いと考えられる。また、牧草地として整備された現在利用されなくなった場所については、自然の保全及び水源の確保など、将来の世代に良好な自然環境を残すために、今から森林を回復する植林を行うことが望まれる。



図 1-3-2 東部地区の水系を中心とした環境系



東部地区の環境特性







ペレット生産とペレットストーブ、ボイラー



雪室 冷房室

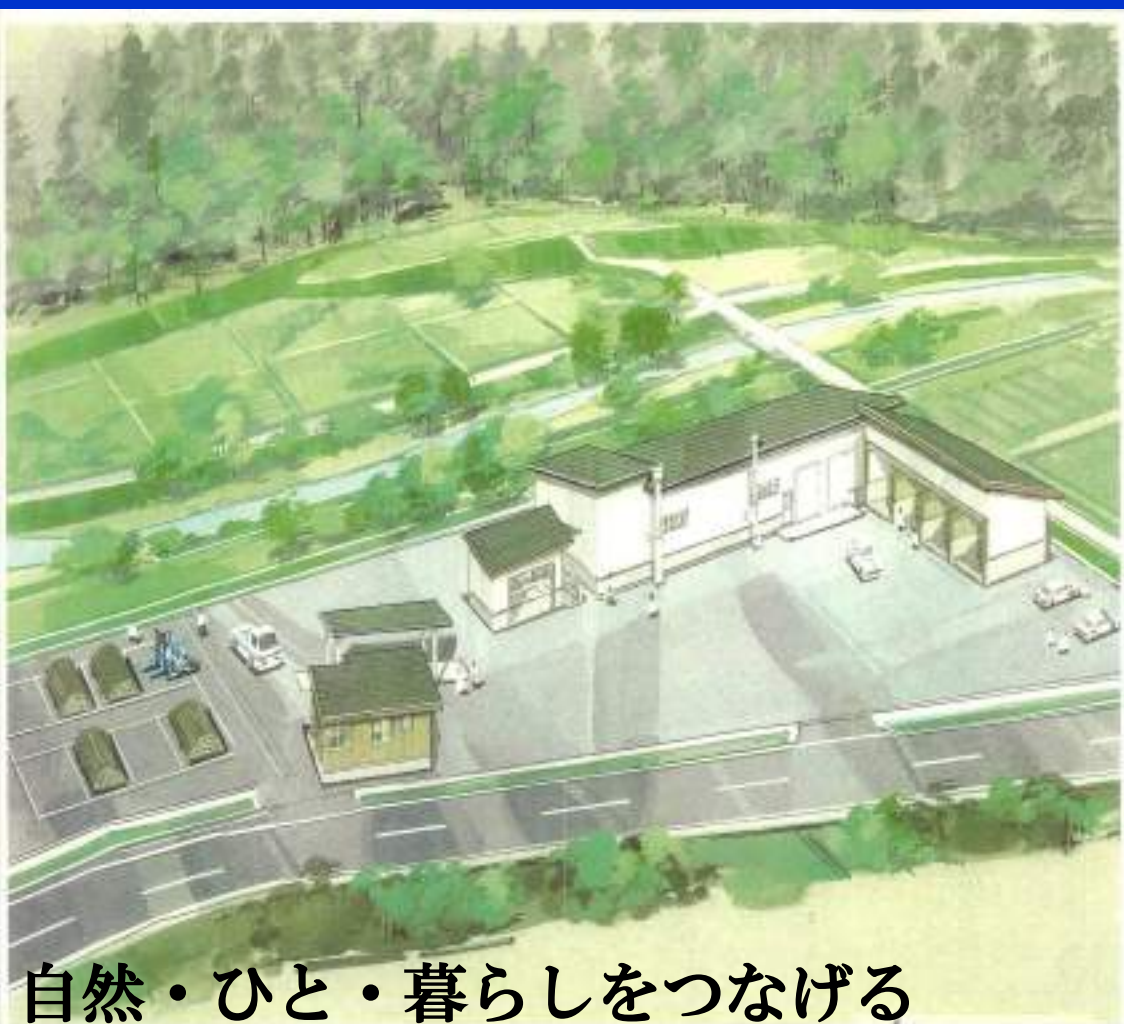
山形県飯豊町での森林バイオマスエネルギーの



モデルエコ住宅

地産地消戦略

# 木質バイオマス製造施設



自然・ひと・暮らしをつなげる  
循環型エネルギー」のまち

## ◇木質ペレット生産施設の概要

### 設備条件

製造能力：300kg/h

稼働計画：年間生産量390t

乾燥設備：燃料は木質

製造設備：ペレット製造設備、  
おが粉製造設備（菌床用として販売）

### ◇波及効果

- ・新たな産業と雇用の創出  
（きのこの菌床栽培）

### ◇今後の課題

- ・木質ペレット、おが粉製造に係る品質確保と販路拡大
- ・産学官連携によるいいで型ペレットストーブの開発



山形県飯豊町第五次総合計画策定支援  
基本構想策定委員長として

2018～2020年度

# Iide Future Vision

飯豊で幸せになる。  
やっぱり、

## 4. SDGsのまちづくり

国際的テーマであるSDGsの基本的な理念である「誰一人取り残さない社会の実現」は、「住民主体のまちづくり」をまちづくりの原点としている本町が目指すべき姿であり、第5次飯豊町総合計画の策定にあたっては、SDGsのゴールをより意識して策定しています。

今後も町のすべての事業について、多様な主体と連携しながら、地球上で生きる者の責任として常にSDGsを意識した持続可能なまちづくりを目指します。



2030年に向けて世界が合意した「持続可能な開発目標」です

<p><b>目標1</b></p> <p>1 貧困をなくそう</p>  <p>世界中、あらゆる形の貧困を終わらせる。</p>	<p><b>目標2</b></p> <p>2 飢餓をゼロに</p>  <p>飢餓を終わらせ、食糧を改善し、持続可能な農業をすすめる。</p>	<p><b>目標3</b></p> <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>  <p>何歳であっても、健康で、安心して満足に暮らせるようにする。</p>	<p><b>目標4</b></p> <p>4 質の高い教育をみんなに</p>  <p>だれもが平等に質の高い教育を受けられるようにし、だれもが生産にわたってあらゆる機会に学習できるようにする。</p>	<p><b>目標5</b></p> <p>5 ジェンダー平等を實現しよう</p>  <p>すべての人が性を理由に差別されないようにし、すべての女性や女の子に力を与える。</p>	
<p><b>目標6</b></p> <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>  <p>水と衛生的な環境をきちんと管理して、だれもが安全な水と衛生的な環境を得られるようにする。</p>	<p><b>目標7</b></p> <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>  <p>供給が安くて、安定して実用でき、持続可能な近代化エネルギーをすべての人が使えるようにする。</p>	<p><b>目標8</b></p> <p>8 働きがいも経済成長も</p>  <p>自然資源が守られ、みんなが参加できる経済成長を進め、すべての人が働きがいのある人間らしい仕事をできるようにする。</p>	<p><b>目標9</b></p> <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>  <p>災害に強いインフラをつくり、みんなが参加できる持続可能な経済発展を進め、新しい技術を生み出しやすくする。</p>	<p><b>目標10</b></p> <p>10 人や国の不平等をなくそう</p>  <p>国と国の間にある不平等や、国の中の不平等を減らす。</p>	<p><b>目標11</b></p> <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>  <p>まちや人々が住んでいるところを、だれもが受け入れられ、安全で、災害に強く持続可能な場所にする。</p>
<p><b>目標12</b></p> <p>12 つくる責任 つかう責任</p>  <p>持続可能な方法で生産し、消費する。</p>	<p><b>目標13</b></p> <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>  <p>気候変動や、それによる影響を止めるために、すぐに行動を起こす。</p>	<p><b>目標14</b></p> <p>14 海の豊かさを守ろう</p>  <p>持続可能な開発のために、海や海の資源を守り、持続可能な方法で使用する。</p>	<p><b>目標15</b></p> <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>  <p>陸の生態系を守り、再生し、持続可能な方法で利用する。生物多様性が失われることを防ぐ。</p>	<p><b>目標16</b></p> <p>16 平和と公正をすべての人に</p>  <p>平和でみんなが参加でき、地域・国・世界のどのレベルにおいても、すべての人が平等に扱われ、必要な説明がなされる制度をつくる。</p>	<p><b>目標17</b></p> <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>  <p>実施手段を強化し、持続可能な開発に向けて世界の国々が協力をする。</p>



# 農村計画研究所の再興 いいで農村未来研究所 2022年7月～

## 飯豊町立 いいで農村未来研究所

機能

### 教育

- ・まちむらづくり塾
- ・人づくり
- ・町民ニーズへの対応
- ・農村の意義と魅力の発信
- ・農村現場実践的学び
- ・農村SDGsの学び（子どもから）

### 研究

- ・農村計画アーカイブ
- ・農村計画の実践知の発信と交流
- ・調査研究の実施
- ・研究所年報の発信

### コンサルティング

- ・地区別計画の推進支援
- ・SDGs総合計画推進支援
- ・まちづくりカフェ
- ・農村資源を生かした  
もの・エネルギーづくり助言

### 目指すもの

★飯豊町における住民参画のまちむらづくりの歴史を継承し、農村の価値を未来につなげるために、まちむらづくりの担い手を育成する。

★飯豊町の環境・社会・経済の3側面からの発展に貢献し、広く町外の人々や研究者との交流を促進する。

★地球環境危機の課題を抱える今、農村での自然と共生・共存した暮らし、農村資源の持続的な管理と活用による魅力的な暮らしの知恵と実践を発信する。

★農村の伝統的な知恵を再考・再興・活用し、さらに新しい課題に関する知と実践手法について学び考え、実践していく機会を提供する。

運営方針

- ◆組織の趣旨に賛同する多くの町民、町外市民との協働で活動する。
- ◆多様な情報の欲しい人、まちづくり相談をしたい人が自由に集える場づくりをする。
- ◆環境問題、農村計画や地域デザインのための資料が収蔵され誰でも利用できる。
- ◆各分野の専門的なアドバイザーがいる。

# 小流域での災害・被害 小白川流域

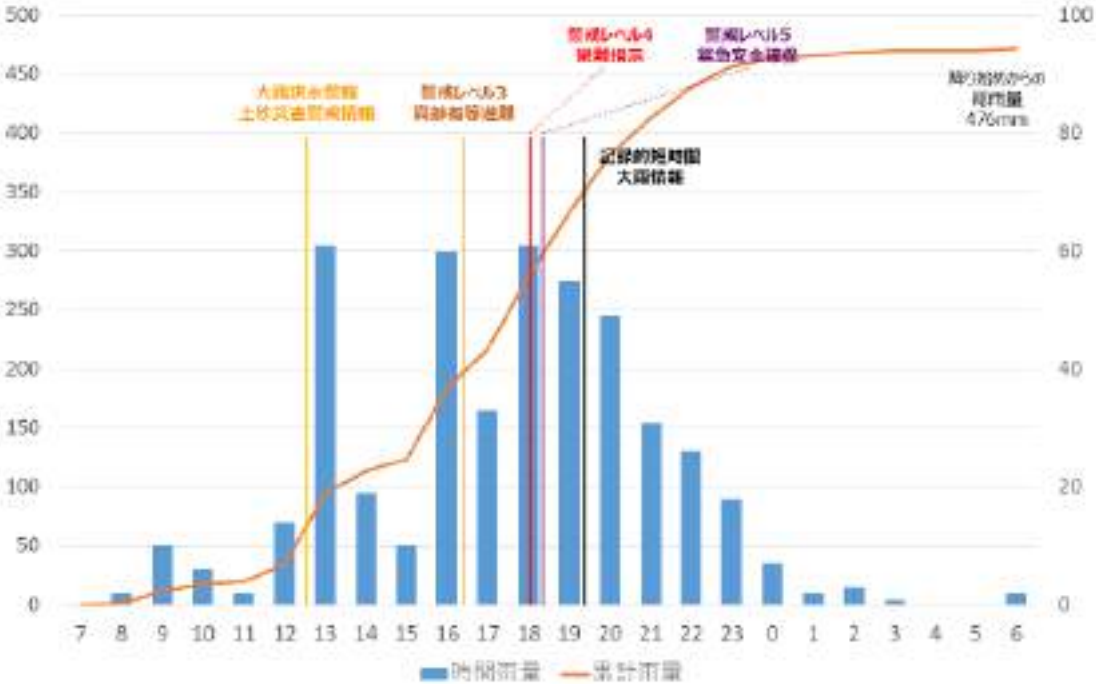
★ 被災状況 2022年9月2日撮影  
ドローン写真は飯豊町役場企画課川村俊貴さん。



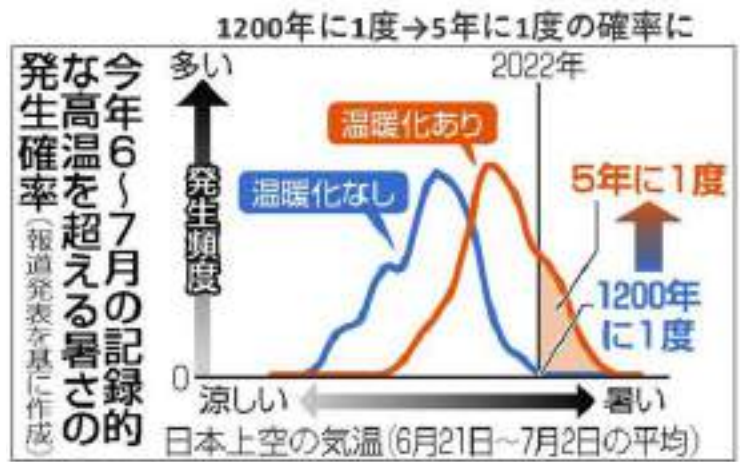


1200年に一度が5年に一度の時代に突入か？  
 農村はどう地球温暖化に  
 適応するのが問われている

雨量計（棒観測所）国土交通省設置



飯豊町役場 横澤俊彦提供資料  
 (国交省資料)



東京新聞 20220924 朝刊 文部科学省や気象庁気象研究所  
<https://www.tokyo-np.co.jp/article/204314>

①小流域での災害・被害 森林崩壊、人工林管理、洪水、砂防ダム土砂累積、  
河川の直線化の影響？

②農地（水田・畑地）の被害 土砂及び流木による河川沿いの被害農地、  
ため池からの濁流、田んぼの滞水  
50年前の圃場整備の影響（田んぼダム？）  
八幡堀排水路の溢水と住宅地浸水

③市街地の住宅浸水被害 八幡堀の溢水による樺市街地の浸水  
西側の斜面からの道路表面急激流水  
西側のため池水路からの土砂水による浸水  
道路側溝雨水による八幡堀の溢水と浸水  
米坂線が堤防となり滞水被害？

④散居宅地の浸水 西から、田んぼを溢水した散居宅地への浸水  
（自然の傾斜と圃場整備の区画道路水路網の矛盾？）  
散居宅地と道路・田んぼの満水水位が同じ（圃場整備後？）

★伝統散居住宅の免浸発揮

伝統散居住宅の基礎は石場建て（独立基礎）、床下浸透で被害軽減

⑤避難行動の課題

避難勧告の時期（一時間豪雨量で50mmが目安か？、累積雨量が目安か？）

道路浸水中の二次避難行動の危険性、避難行動と避難場所の見直し、

垂直避難及び各自・共同判断の避難行動、

萩生川上流部右岸の沢上部（風穴）地すべり崩壊森林





萩生川中流部右岸の全壊した住宅の洪水直後の撮影（役場提供）



萩生川中流部右岸の全壊した住宅（屋敷林は跡形もない）



**萩生川沿い 屋敷林と家屋の全壊**

**今後の対策、復旧の在り方は根本的に考え直す必要あり。**

# 小流域での災害・被害 小白川流域

★ 被災状況 2022年9月2日撮影  
ドローン写真は飯豊町役場企画課川村俊貴さん。



大巻橋の新たな位置、  
その前後での遊水地、遊砂地の設置、

新しい遊水地  
指定。

# 飯豊の田園にどう生きるか

- 人間は自然の一部であり、  
自然の一部を人間が育くみ、  
人間は自然に生かされている
- 人間以外のもの（自然）とどう関係を作り直すか
- 田園に生きる人間が、生きるために、  
大切に育んできた里地里山と  
再度の関係性を作り直し、新たな田園人になる



# まとめ

## いいでSDGs型復旧の方向性

① 厳しい地球環境において、災害に備え、**ビエン・ビビール**（善き生き方、善き生活）を求める。

② 自然を活用した解決**NbS**型復旧  
自然（雨・森・川・農地・土）との関係性の再構築。

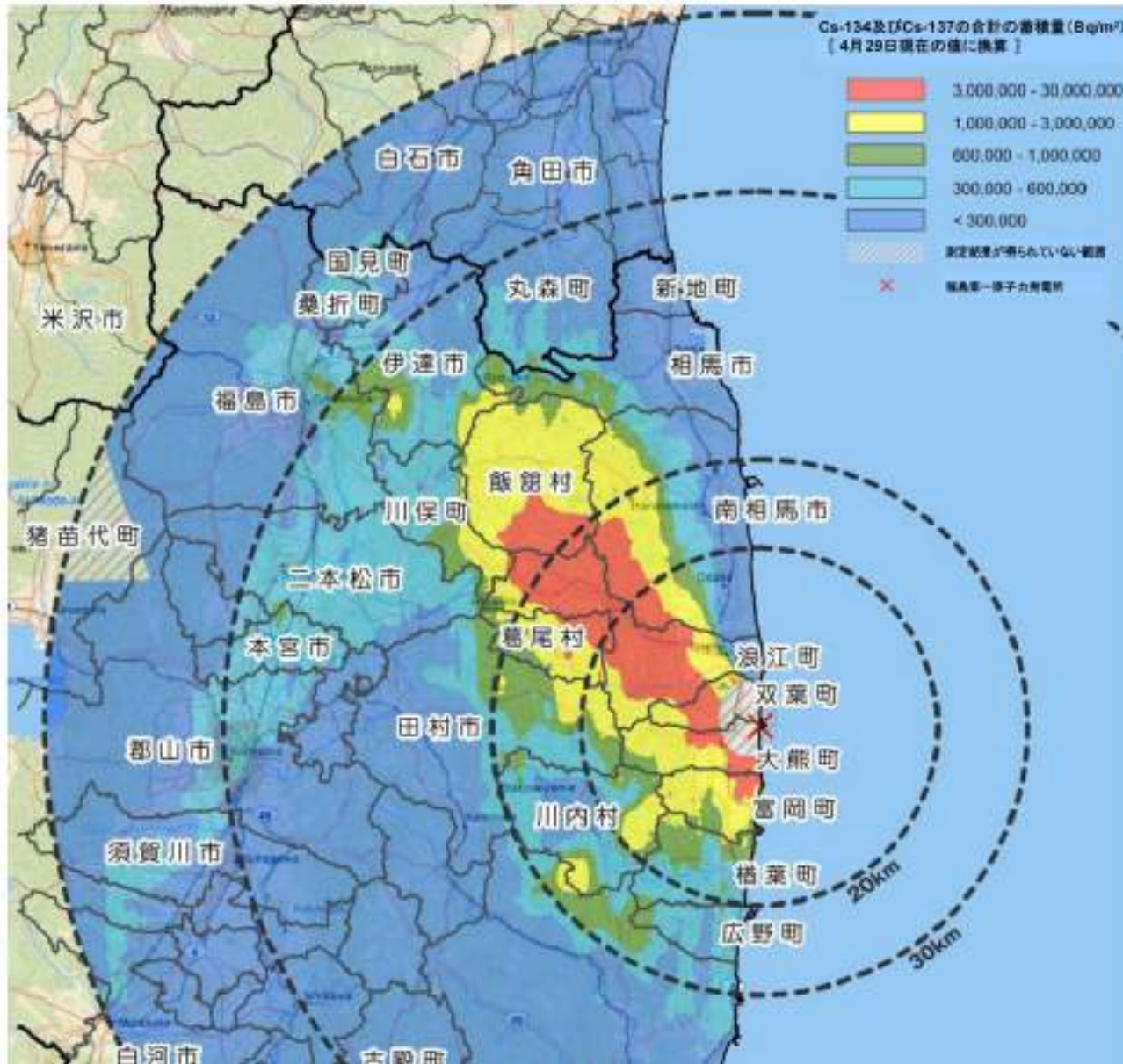
③ 温故修復  
自然との関わりの歴史を知り、自然に寄り添う**田園文化修復**

項目	いいでSDGs型復旧の方向性
基本	自然（森・川・里）と人の関係性を修復し、自然による修復解決（NbS）、持続可能な <b>いいで文化に生きる</b>
山	森林知（地すべり、拡大造林の歴史、所有状況、かつての土地利用・集落の歴史）、林班単位での生態系保全と連動した施業と保安林の管理、森林贈与税活用、森林（自然）との関係性の再構築、 <b>いいで森文化</b>
川	60年前の川への回帰、支川と本川の合流点の遊水・遊砂地、地域の河川環境文化の再生、河川沿いの農地利用の方法、多自然河川・緩い土手、沈下橋・流れ橋、 <b>いいで川文化</b>
農地・用排水	圃場整備前の農地・水路への見直し、農地・水路の自然傾斜を生かす、用水路配置の見直し、ため池からの水路の再整備（道路側溝との調整、市街地近接地での遊水地）、 <b>いいで農文化</b>
田園散居	散居周囲の水路・土塁、屋敷林の保全と育成、独立基礎の再評価（免浸）、日常的な水と触れ合う文化、宅地周囲の水生態系の育成、 <b>いいで散居文化</b>
市街地	丘陵宅地・公共施設敷地の雨水浸透化、側溝と適度な遊水地の設置、段丘の緑地保全、市街地周囲の <b>グリーンインフラ</b> 、自然 <b>いいで里町文化</b>
避難行動	水害対応の避難行動マニュアル、緊急避難所の見直し、共同避難行動
地域防災	自主防災組織化、地区別計画の防災拡充化、地区別自然関係性計画（地区別NbS）

## 2 福島県飯舘村 自然との共生、原発災害

別紙2

文部科学省及び米国DOEによる航空機モニタリングの結果  
(福島第一原子力発電所から80km圏内のセシウム134, 137の地表面への蓄積量の合計)



# ★農村住民主体のエコロジカルな集落再生活動

スローライフなむらづくり

までい（真手）ライフ

福島県飯舘村

村民の  
コミュニティビジネス  
産直と炭の販売所建設





2023/12/14

60



ピザ釜づくり、そば打ちWS





除染土壌を詰めたフレコンパックの山

2014年11月 飯舘村



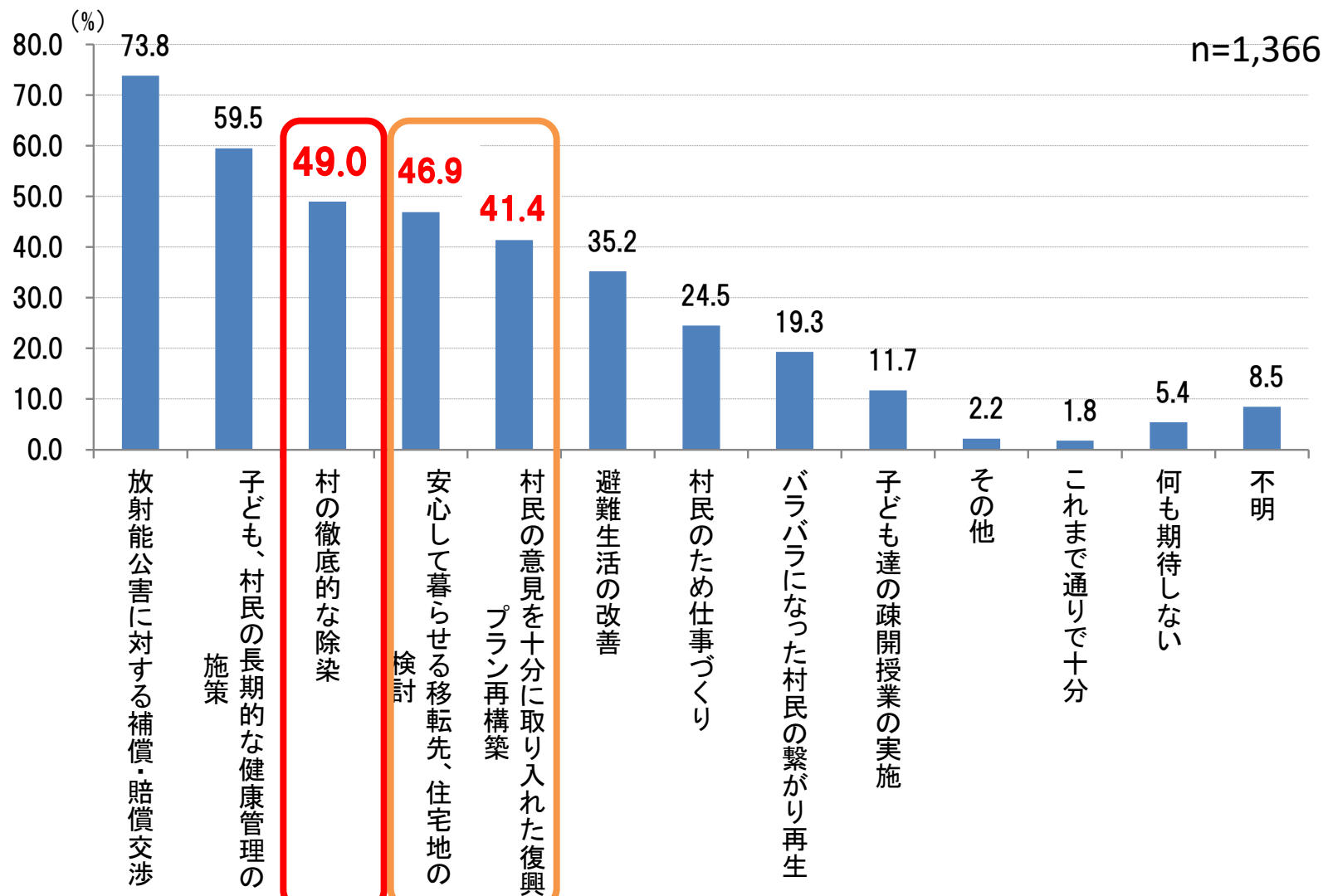
## 共同菜園づくり支援 作業小屋の提供

相馬市内の飯舘村仮設住宅地の近くの共同菜園づくり 支援

# 村が今後重視すべき施策

(2012年冬)

## ・ 有権者アンケート





・飯館村での農的暮らしが継続でき、かつ  
 筆落のコミュニティが維持でき、また、自然  
 エネルギーを活用したエコロジカルな暮らし  
 が実現できる、仮設村を構想した。  
 ・戸建て仮設住宅ではなく、長屋形式で共同  
 性の確保、効率的な建て方を想定する。  
 ・建物はユニットで構成し、このユニットを  
 外部でプレハブ的に製作し、それを避難村に  
 運び、村の工務店、造園会社が施工し雇用も  
 創み出す。

**再生可能エネルギーの地産地消戦略**



● **みんなの建物**  
 キッチン、トイレ、多目的なスペースを持つ、みんなの建物を建設します。みんなが自然に集まってくるようなシンボリックな空間となります。ゲストハウスや外来者の体験入居の場所としても利用できます。



● **みんなの農地**  
 敷地の北側のまとまった土地を、みんなの農地として利用します。みんなで協力し、地元の農家の支援を受け、様々な農業にチャレンジすることができます。



● **他人の庭**  
 各住戸にもちょっとした庭が、ガーデニング、有機野菜の栽培など自由に趣味を楽しみましょう。



**まで一な避難長屋の意義**

- ① 住宅としての本質性はある。
- ② 恒久的な村として機能してもよいが、飯館村に帰村した場合は、避難村が別個の地帯的な活用可能。
- ③ 居住する村民は、300万円の住宅再建補助金を活用して初期投資をする。
- ④ 残りの建設費は、補助金+協賛的投資金を活用する。

● **みんなの広場**  
 建物と建物間の空間を、みんなの広場として利用します。子供の遊び場、非戸籍会議、パーベキュー、収穫祭や夏祭りなどのイベント開催・・・住民の憩いの場となります。



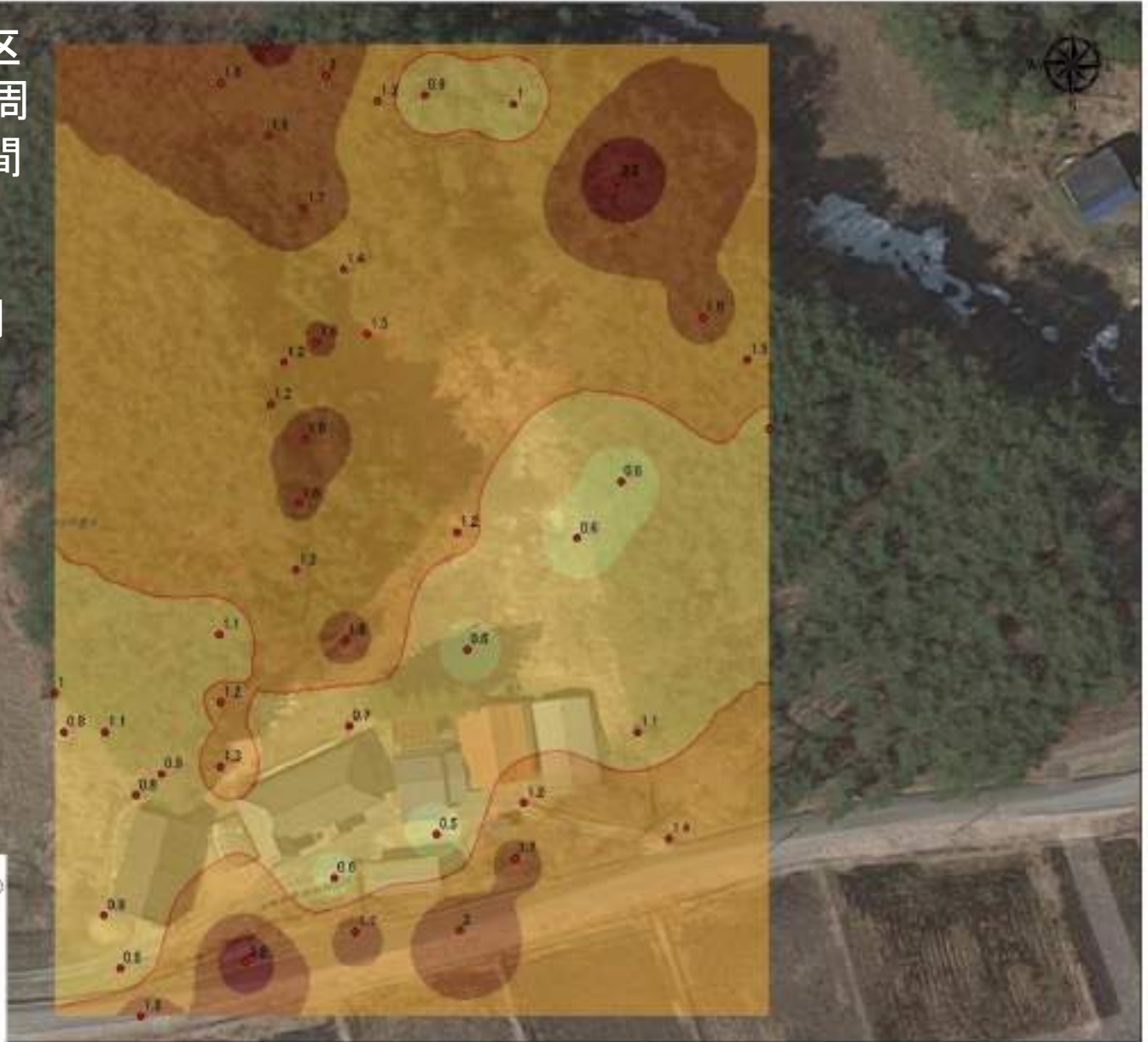
● **森の家とセルフビルド**  
 森の家を自然素材（例えば藁）を使って、地元の大工さんなどの協力のもと、自分たちで作ります。森の家だけではなく、みんなの建物、各住戸も、セルフビルドが可能な作業は、自分たちで作ります。



# 除染の効果と限界

飯舘村前田地区  
S邸 宅地及び周  
囲の山林の空間  
線量分布図  
地上 約1m  
2015年7月

日大・糸長研究  
室







汚染農地における作物の  
バイオエネルギー利用に関する実証研究

# 環境再生事業概要

## 【整備内容】

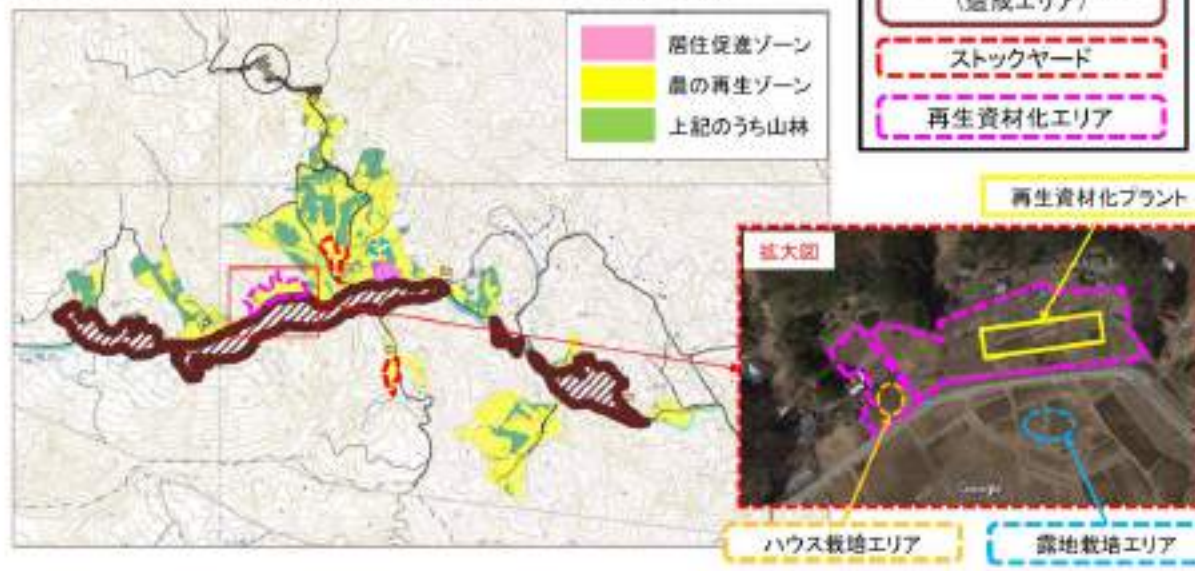
環境再生事業として資材のストックヤード及び除去土壌の再生資材化施設エリアを整備後、農の再生ゾーンにおいて、再生資材を利用して造成を行う。

環境省資料

## 【全体整備規模】

候補地: 34ha(今後変更となる場合がある)

※盛土量等については、今後の計画により具体化する。



2019年10月汚染土壌  
再利用化施設内見学







## ★復興核災害2 汚染樹木活用によるバイオマス発電プロジェクト

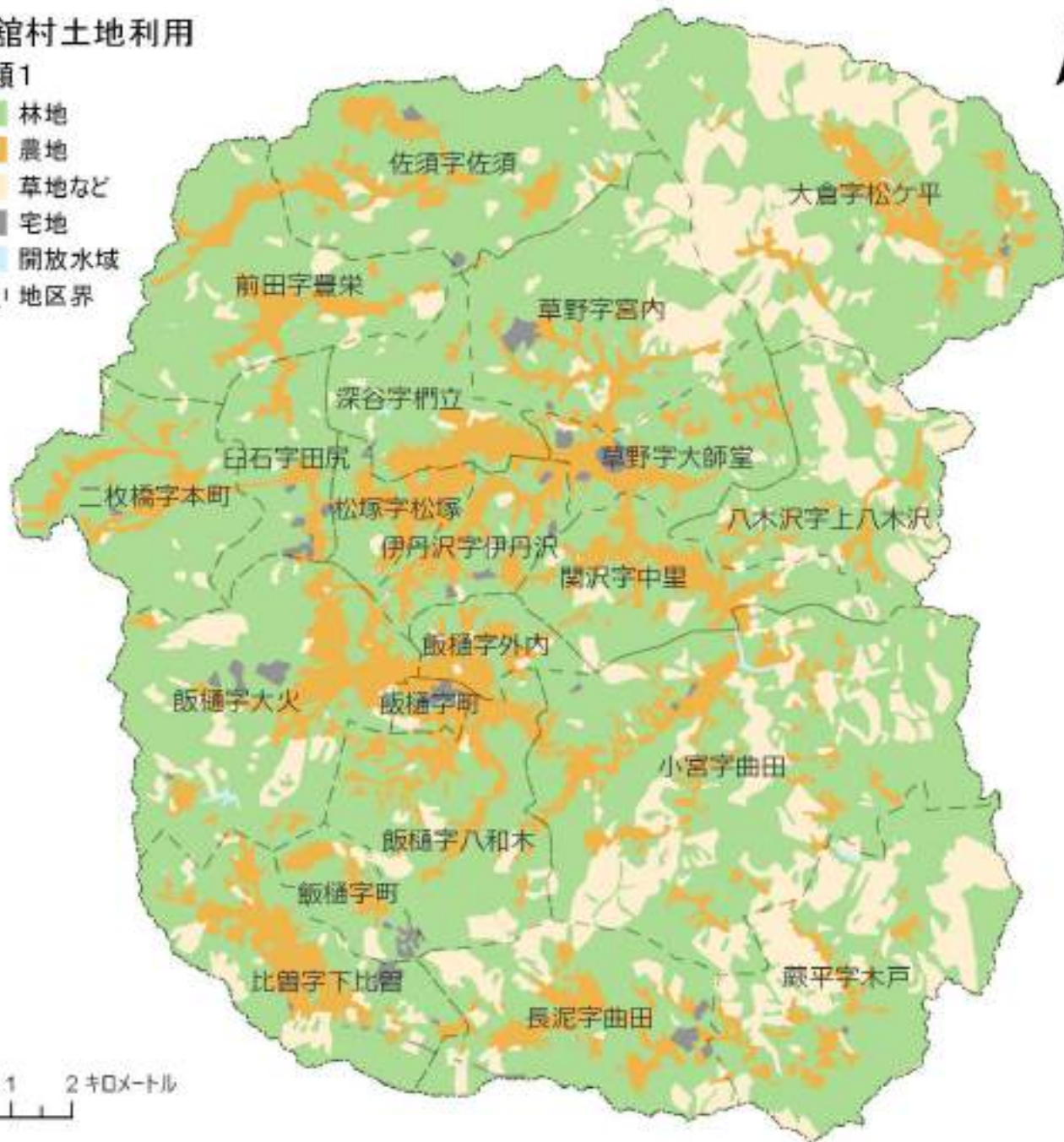
- ・ **汚染森林での再生復興事業による復興核災害の拡大の危険性**
- ・ 福島特措法による復興補助金事業として森林再生事業による木材供出事業
- ・ 樹皮6400Bq/ kg以下の樹木の伐採供出が事業化  
製材供出される木材・建材の放射能汚染規制値は設定されていない。
- ・ この木材を30年後将来焼却処分したら灰は何万Bq/ kg特定放射能汚染廃棄物  
この材が建材として市場流通
- ・ 伐採された汚染樹皮等は福島で年間10万トン排出と推計  
→木質バイオマス発電所が福島再生加速化金（国庫補助）で進められる。
- ・ **2020年 飯舘村の主導で東電と熊谷組等のJVによる民間企業がFITを活用  
補助金60→100億円のバイオマス発電所が建設中2023年稼働**
- ・ 焼却灰の高度汚染に伴う被ばく労働（核施設の労働に相当か）や  
飛灰の拡散（バクフィルターでは除去しきれない）広域的な核災害
- ・ 原発誘致と類似した経済振興策であり、経営主体が東電とゼネコンのJV、  
**復興という名の補助事業を活用したショックドクトリン、  
災害便乗型資本主義が被災地域で展開される危険な未来が想定**
- ・ **村民の一部は汚染森林の除染につながるという期待と木材が売却できる  
林業振興につながるという期待**



# 飯舘村土地利用

## 分類1

- 林地
- 農地
- 草地など
- 宅地
- 開放水域
- 地区界



植生調査  
(植生自然度調査)  
第5回調査  
平成6～10年度  
1/5万  
現存植生変化図  
(平成11年)

0 0.5 1 2 キロメートル

KOJI ITONAGA

©KOJI ITONAGA

# 森林除染できないままの長期的汚染地域の継続的汚染の課題

飯舘村の宅地・農地の除染済土壌は220万袋。

飯舘村の汚染された森林土壌の表層5cmの土を  
除染すると、866万袋のフレコンバック

放射性セシウムが残存している森林表土の総量は、  
特定除染地域での推計で約6200万 $m^3$ である。  
中間貯蔵地での予定保管量は約1700万 $m^3$ である。  
約4倍以上の汚染土壌が森林に永久放置されている。

除染できず放射能汚染森林のまま  
長期的放射能汚染地域  
→森林伐採による汚染バーク→バイオ  
マス発電（復興核災害）  
相馬郡

飯舘村

部分的に除染され、避難解除された  
集落居住地と周囲の農地に残存する  
放射性物質→100Bq/kg以上の汚染農  
地での営農せざるを得ない理不尽

汚染バークのバイオマス発電  
国からの復興助成金による  
（東電主体の企業） 復興核災害

帰還困難区域での  
除去・汚染土壌の再利用  
土地改良事業（復興核災害）

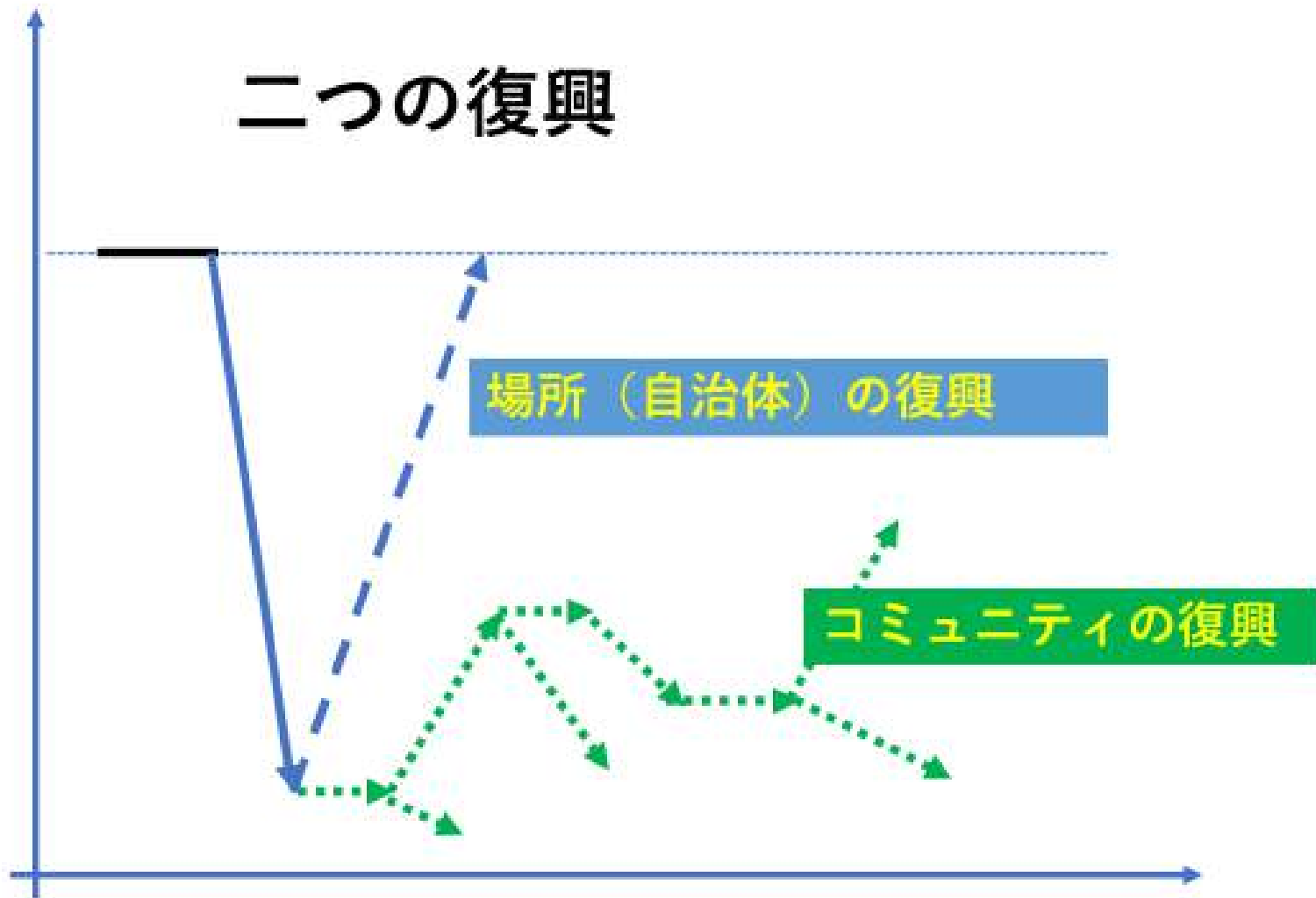
# チェルノブイリの避難区域の設定

	土壌汚染 セシウム 137 (kBq/m <sup>2</sup> )	追加的被ばく量
特別規制ゾーン	1480以上	
移住の義務ゾーン	555以上	年5mSv以上
移住の権利地域	185～555	年1mSv以上
在留者／避難者、それぞれへの支援(職業、住居、薬、食糧)		
徹底的なモニタリングゾーン	37～185	年 0.5～1mSv

避難解除地域の除染居住地は  
 移住の権利～義務ゾーン  
 避難解除地域の汚染森林及び帰還困難区域は  
 特別規制ゾーン

出典: Vladimir P. MATS  
 in Belarus about the Ra  
 Review and Present Sit  
 ピース・エクセター研究

# 二つの復興



# 被災後12年の被害実態、暮らしと村人・村の将来を語る

主催：飯館村放射能エコロジー研究会 (IISORA)

共催：NPO法人エコロジー・アーキスケープ

**2023年11月3日(金) 午後1時～5時半**

11月4日午前 飯館村内の現地見学

場所：飯館村交流センターふれ愛館ホール  
参加者：どなたでもお気軽にご参加いただけます。  
参加費：無料

挨拶 今中哲二 (IISORA)

総合司会 佐久間淳子 (IISORA)

1部 村人の部 13時05分～14時35分

菅野 哲 (村人) 二地域での農的暮らし

伊藤延由 (村人) 山菜・キノコを測って13年

細杉今朝代 (村人) 飯館村での農的生活

本田 徹 (村人、いいたてクリニック医師) 飯館村民の健康と医療

横山秀人 (村人) いいたてネットワーク8年間の活動とこれから

資料提供 飯館村「飯館村の現状と復興施策について」

休憩 14時35分～45分

2部 専門家の部

今中哲二 (IISORA) 飯館村の放射能汚染のこれまでとこれから

糸長浩司 (IISORA) 森林汚染と再生の途、汚染土壌再利用、バイオマス発電

鈴木 譲 (IISORA) 放射性物質が水に流れ込めば真っ先に影響を受けるのは水生生物

振津かつみ (IISORA) 健康被害への配慮

豊田直己 (IISORA) 12年間、村民を操り続けて

3部 総合討議 16時～16時50分

司会 糸長浩司

登壇者 発表者全員

会場との討論

まとめ 菅井益郎 (IISORA)

終了後 飯館村きこり で懇親会

11月4日 午前 飯館村内の視察



東京電力福島第1原発事故後、「こちら特報部」が10年余にわたって取材する団体がある。福原村放射能工コロジー研究会(ICSORA)だ。避難指示がされた福島県飯館村の汚染状況、健康影響などを巡り、村民と学者らが調査や議論をともにし、将来の備前を構えてきた。世話を焼く東京電力の今中田二さんらは今月、コロナ禍で見送ったシンポジウムを4年半ぶりに開催。動画配信もあったシンポジウムを通じて、村内の現状、課題が浮かんできた。(朝田西太郎、安藤裕子)



ICSORAのシンポジウムに出席した村民や研究者ら。福原村放射能センターで10月14日撮影。(朝田西太郎撮影)



飯館村が赤くもよめる福島県地図。1月

避難指示を受けた後、飯館村は「避難指示解除準備区域」に指定された。しかし、住民は「避難指示解除準備区域」に指定されたとしても、避難指示が解除されるまで、避難生活が続く。飯館村では、避難生活を送る住民の生活支援や、避難生活の改善を図るための取り組みが行われている。また、飯館村では、避難生活を送る住民の生活支援や、避難生活の改善を図るための取り組みが行われている。

### 避難解除6年余 福島・飯館は…

「避難生活を送る住民の生活支援や、避難生活の改善を図るための取り組みが行われている。また、飯館村では、避難生活を送る住民の生活支援や、避難生活の改善を図るための取り組みが行われている。」

## 今や老 老行政区

### 医療環境は前途多難



## 未除染の山林

### 樹木焼却に危惧強く

山林の汚染問題が深刻化している。住民は、山林の汚染が健康に影響を及ぼすことを危惧している。また、山林の汚染が農産物の汚染につながることを懸念している。政府は、山林の汚染を除去するための取り組みを行っているが、住民からは、山林の汚染を除去するための取り組みが行われている。

### 為政者頼み 住民もどかしさ

住民は、為政者に頼りすぎていると感じている。また、住民は、為政者の対応に不満を感じている。住民は、為政者に頼りすぎていると感じている。また、住民は、為政者の対応に不満を感じている。

# 4. 大船渡市碁石地区の高所移転 計画支援と集落再生

東京の専門家集団の  
「災害まちづくり支援機構」との

共同支援活動





高所移転候補地

仮設住宅地

お寺

神社

津波被害集落

252 m

© 2012 ZENRIN

Data SIO, NOAA, U.S. Navy, NGA, GEBCO

ストリートビュー 100%

Google

ポインツ 38° 59' 34.11" N 141° 43' 35.41" E

上空 100%

# “復興まちづくり計画”策定への支援体制

基石地区復興まちづくり協議会：38回・住宅復興部会：3回・高所移転住宅建設委員会：19回

## 基石地区復興まちづくり計画

- ①景観や環境，新旧コミュニティに配慮した住宅地及び住宅再建計画
- ②津波被災地での地域の生業再生や地区としての将来土地利用計画
- ③広域を視野に入れた交通ネットワーク，エコツーリズムの展開

提出

大船渡市役所

地区住民の参画による合意形成に基づく計画案の策定

意見交換

- ・専門知識を要する提案，  
アドバイス
- ・個別の相談窓口

基石地区復興協議会  
(地区住民)

- ・高所移転による住宅再建の  
ためのワークショップ
- ・地域再生復興のための  
ワークショップ

・生活再建での課題解決の質問，要望等

災害復興まちづくり支援機構  
専門士業

連携

日本大学  
建築・地域共生デザイン研究室

・再建住宅のモデルタイプ提案

【基石地域復興まちづくり協議会(検討会)】

「リアスの風」  
盛岡在住建築家有志

【住宅復興部会】  
【高所移転住宅地  
建設委員会】

協議会，部会等でのWS・アンケート調査等の企画・運営を通じた  
計画支援により“復興まちづくり計画”を策定。

# 【津波被害地大船渡市碁石協議会での支援、高所移転住宅地建設等】

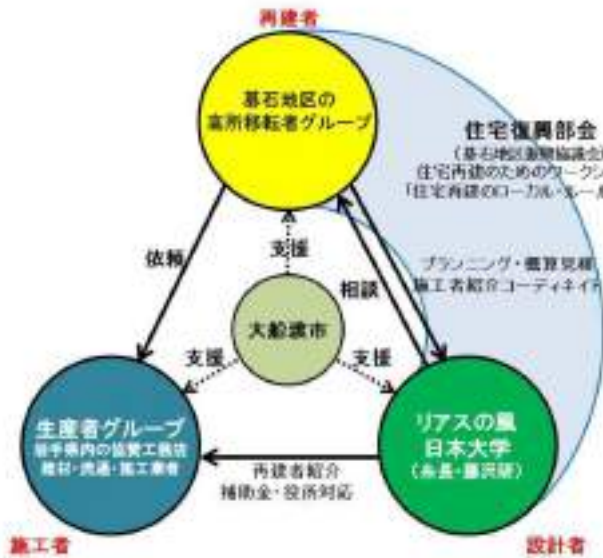
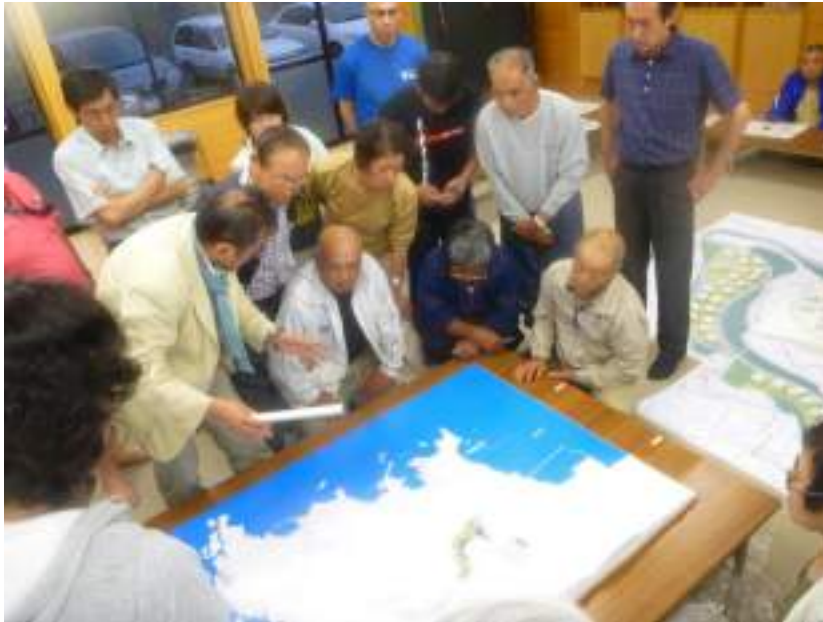
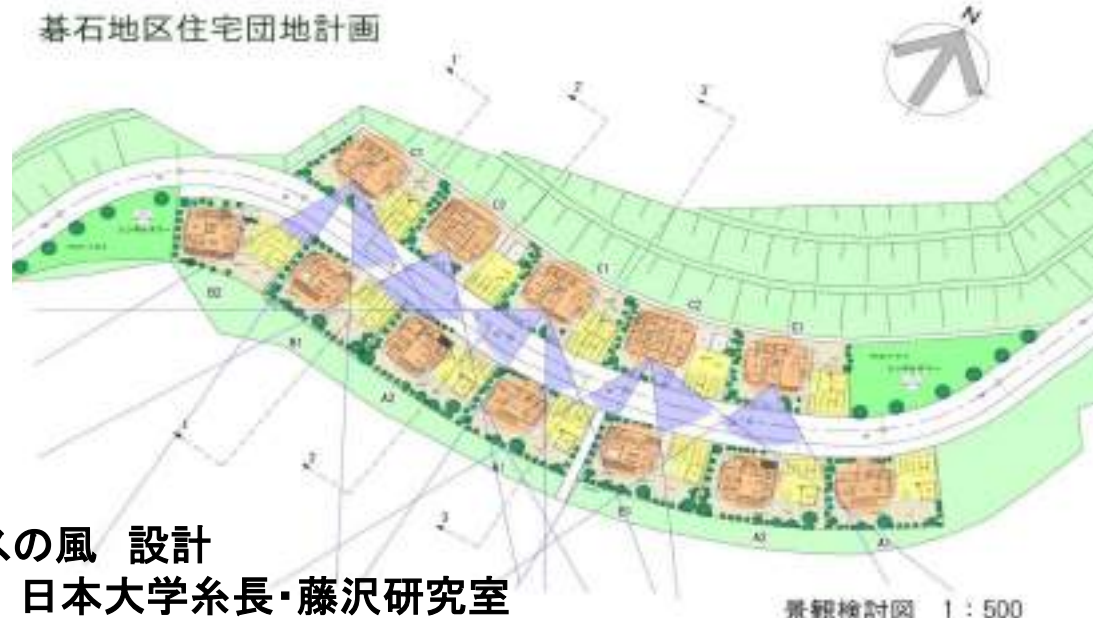


図 共同発注を実現する住宅再建の体制

碁石地区住宅団地計画



リアスの風 設計  
協力 日本大学系長・藤沢研究室



祝 「りあすの丘」街びらき  
ご支援・ご協力をいただいた多くの皆さまに心より感謝を込めて  
日時 平成 29年 5月 5日  
群石地区高原移転住宅地建設委員会



# 4. 丹沢大山地域自然再生



植生保護柵



計画的捕獲



土壌保全対策



生息環境整備

統合的な  
自然再生事業



多様な恵みの再生

# 地域の自立的再生

多様な生きものが暮らし山の恵みを受ける里の再生

地域自立再生への支援

野生動物の総合的地域対策支援

都市住民の参加による里山再生

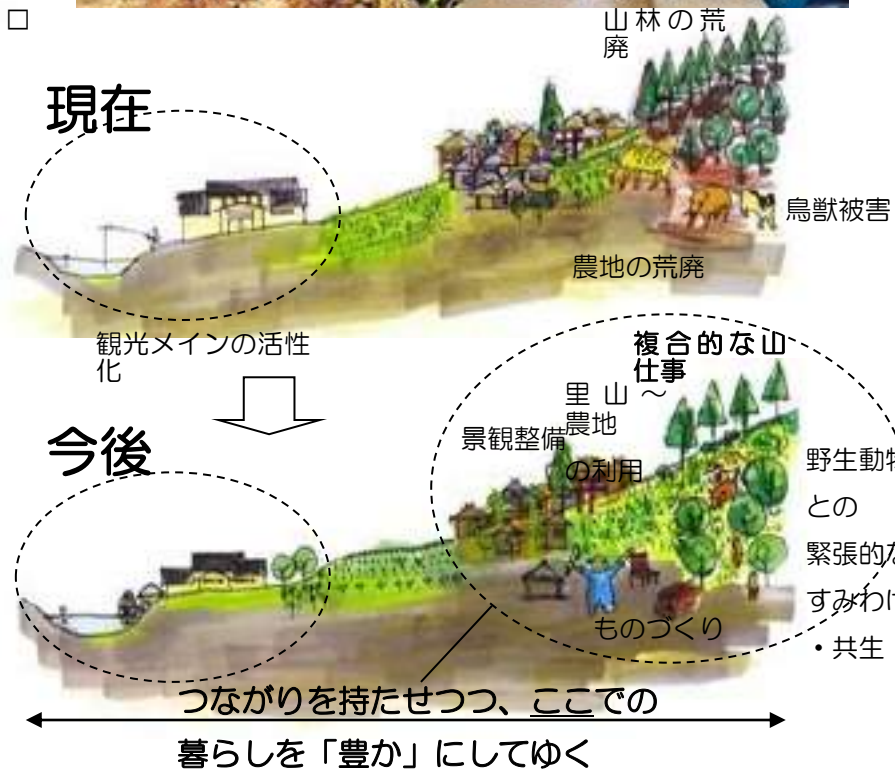
活動への支援

里山エコツーリズムの推進

里山エコビレッジづくり支援



□



# 丹沢大山再生団体

## NPO法人四十八瀬川自然村と活動拠点地の概要

- 2001年に発足
- 四十八瀬川流域の秦野市上地区を中心に活動をおこなう
- 上地区の自然環境の保全、地域資源を活かした地域の活性化を目的に活動
- 里地里山再生をテーマに自立支援に取り組んでいる団体
- 団体の構成員のほとんどが活動地区（上地区）外の住民で構成
- 上地区の農業者の高齢化等により十分な管理が行き届いていない農地山林を援農というかたちで活動拠点を点的に増やしている



写真1. 炭作りをおこなっている焼き窯



写真2. 酒米作りをおこなっている水田



写真3. 当該NPOが活動をおこなっているブルベリー畑



写真4. 当該NPOが製作したツリーハウス



# 2023 年度 丹沢大山自然再生活動報告会

関東大震災から 100 年 ～歴史からみる丹沢～

「丹沢大山自然再生委員会」では、丹沢の自然環境を再生するため、市民団体・専門家・企業・行政が連携し、様々な活動に取り組んでいます。この度、4年ぶりに対面で活動報告会を開催し、関東大震災から100年をテーマとした活動報告やシンポジウムを行います。

定員  
200名  
参加費無料

2024 年 **1** 月 **21** 日 (日)

13:00～16:30 (開場 12:30)

横浜情報文化センター 6階 情文ホール  
横浜市中区日本大通 11 番地

丹沢大山自然再生委員会の  
ホームページから、県の電子  
申請サイトにリンクします。  
2024 年 1 月 10 日 (水) 締切



## プログラム (予定)

1 開会あいさつ 13:00～13:10  
丹沢大山自然再生委員会 委員長 勝山 輝男 氏

2 活動・研究報告 13:00～14:10

関東大震災から 100 年にちなんで、震災による崩壊地の長期的な変遷や、これまでの丹沢大山自然再生のあゆみなど、長期的な視点でみた丹沢再生の活動・研究報告を行います。

(1) 丹沢大山自然再生のこれまでの道のり (20分・質疑応答込み)  
丹沢大山自然再生委員会 委員長 勝山 輝男 氏



# 5. 水俣病と水俣市水俣病関連遺跡群の文化財としての保存と活用に関する支援研究 2023年7月～

水俣市水俣病関連遺跡群に関する資料

20231218

水俣の歴史的遺構(跡)を残す会

熊本・水俣市の「百間排水口」保存へ 有識者が現地視察



目次

はじめに

- I. 水俣市水俣病関連遺跡の個別の考察
- II. 江戸から現在までのチツソ工場周囲の土地利用変化の解析
- III. 水俣市の石橋文化の継承について
- IV. 水俣市水俣病関連遺跡の資料作成に関して残された課題



国土地理院航空写真より

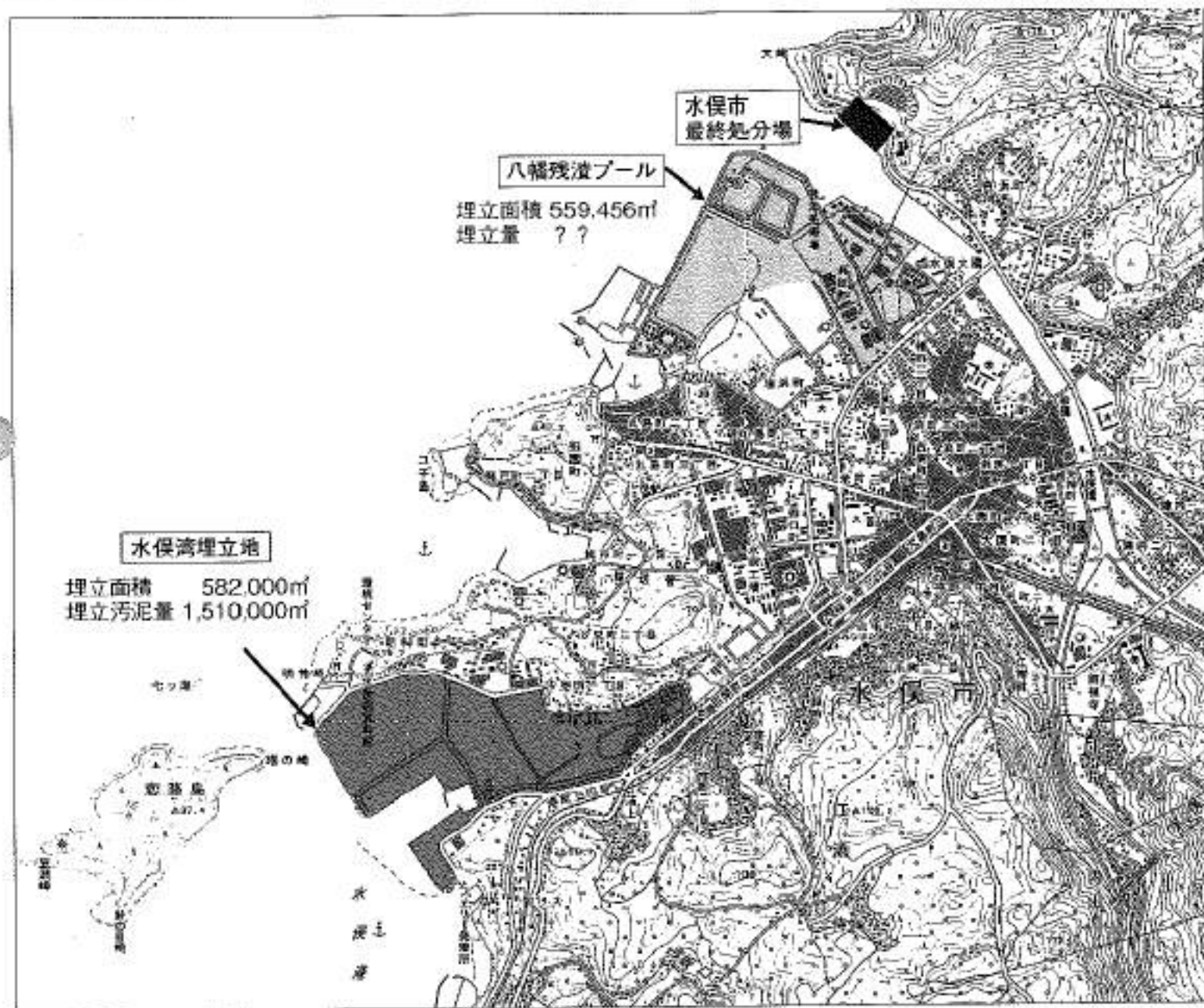


## ② 百間樋門の外側、百間港側の状況



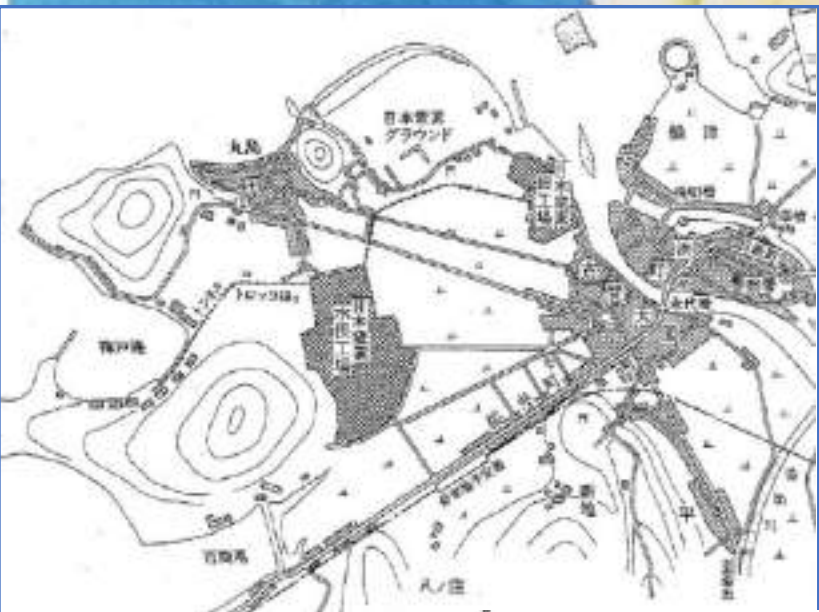
1968年まで有機水銀を含む排水が流されていたテッソ水保工場の百間排水口-69年ごろ、野崎正寛さん撮影（水保市立水保尚資料館提供）

山下氏提供図





上右図は地質ナビでの百間から丸島のエリアの地質図。伊能忠敬の絵図の100年以上前から浜の埋め立て、塩田化が進んでいたと推察。



『聞書水俣民衆史2 村に工場が来た』掲載地図